スポーツコンディショニングの理論と実際Ａ	講義	准教授　牛島　詳力	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目	科目ナンバリング	11322119 12220156 13322103

１．授業のねらい・概要

「スポーツコンディショニング」という言葉には幅広い領域が含まれる。競技の大会に向けて身体の状態を調整するという目的を達成するには，選手の体調面でのコントロールといった直接的な要素だけでなく，練習やトレーニングを安全に行える環境づくりや，予期せぬアクシデントなどに対してどのように対応するかについての指針を示したエマージェンシーアクションプラン（EAP）の策定など，環境面やシステム面の整備がその鍵となる。

本授業では競技スポーツ指導の現場で，選手が本来もつ能力を最大に発揮するうえで必要となる，選手の安全を守るための知識をはじめ，環境や仕組みづくりといった要素それぞれがどのようにアスリートのコンディショニングに関わっていくかをより深く学習し，スポーツの指導に従事する者あるいは医療従事者としての基本的知識を身につける。

２．授業の進め方

授業では配布資料と板書を活用する。

３．授業計画

１．ガイダンス　「コンディショニング」とは,	９．EAP: 心肺停止に対する対応
２．スポーツコンディショニングに関係する資格・職種	10. EAP: 頭部外傷における対応
３．関連各職種の理想的な連携・役割分担	11. EAP:出血・外傷における対応
４．スポーツコンディショニングの長期計画	12. アスリートを守る環境づくり
５．スポーツコンディショニングの中期・短期計画	13. 暑熱環境下のコンディショニング
６．外傷・障害からのリコンディショニング	14. 外傷の応急処置と再受傷予防（テーピング１）
７．アスリートを支えるシステムづくり	15. 外傷の応急処置と再受傷予防（テーピング２）
８．Emergency Action Plan (EAP)とは	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

自らが経験した競技スポーツあるいは国内または海外のプロスポーツや有名アスリートにおけるコンディショニングやそれにまつわる環境や仕組みについてつねに興味を持ち，それらに関するニュースを見聞した際には，自らのよく知る環境下ではどのように対処できるかについて思考を巡らせる習慣をもつ（翌週の講義までに１時間半程度）。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

コメントシート（成績評価の方法・基準を参照）については次の講義時に受講者全員に対して，定期試験については正答と問題の要点を希望者に開示する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツ指導者あるいは医療従事者としてのスポーツコンディショニングに関しての基礎的な知識を身につける。

７．成績評価の方法･基準

授業中の態度，提出物や定期試験での成績を総合して評価を行う。

定期試験（５０%）＋コメントシート合計点（４０%）＋平常点*（１０%）＝総合（１００%）

*平常点（授業参加点）：授業での発言，質問など，教員の主観も含まれる。

追再試験について：何らかの理由で定期試験が受けられなかった者に対して追試験を行うことがある，しかし成績不良者に対しての再試験は行わない。

８．テキスト･参考文献

テキスト： 特になし

参考文献：講義の際に紹介する

授業内容に応じて資料を配布する。

９．受講上の留意事項

毎回の授業時に配布されるコメントシートは必ず記入し提出すること。

講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は，定期試験の受験資格を失うこととする。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，接骨院やプロスポーツチームにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツコンディショニングの理論と実際Ｂ	実習	准教授　牛島　詳力	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目	科目ナンバリング	11302204 12220157 13322104

１．授業のねらい・概要

「スポーツコンディショニング」という言葉には幅広い領域が含まれる。競技の大会に向けて身体の状態を調整するという目的を達成するために，選手の体調面でのコントロールのうち，運動器外傷の予防を目的とした，各関節の可動域を確保するための筋・腱・関節に対しての第三者による介入，あるいは選手自身によるセルフケア，そして予期せぬ外力の影響による関節の不安定性をコントロールできるテーピングなどが広く一般的に用いられている。

本授業では競技スポーツ指導の現場で，選手が本来もつ能力を最大に発揮するうえで必要となる，可動域改善につながる徒手的な介入（スポーツマッサージやストレッチング）そして外傷の発生時に身体にかかるストレスを軽減させるテーピングなどがどのようにアスリートのコンディショニングに関わっていくかをより深く学習し，スポーツの指導に従事する者あるいは医療従事者としての基本的知識を身につける。

２．授業の進め方

授業は基本的に実技指導が中心となる。講義の機会には配布資料と板書を活用する。

３．授業計画

１．ガイダンス，選手のケアにおける Before & After	９．中間実技試験
２．スポーツマッサージの基本（例：下腿部）	10．テーピングの理論・アンカーとブリッジ
３．下肢・体幹部のスポーツマッサージ	11．フィギュアエイトとその応用
４．上肢のスポーツマッサージ	12．足関節のテーピング基礎
５．ストレッチングの基礎（例：ハムストリングス）	13．足関節のテーピング応用
６．下肢・体幹部のストレッチング	14．特殊なテーピング
７．上肢のストレッチング	15．テーピング各技術の応用と練習
８．各技術の応用と練習	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の講義で紹介された実技については，常に復習すること（次の講義までに 2 時間程度）。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各実技試験では採点においての要点を総評として受講者全員に開示する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツ指導者あるいは医療従事者として，選手個人を対象にしたスポーツコンディショニングの各技術に関しての基礎的な知識を身につける。

７．成績評価の方法･基準

授業中の態度，実技試験での成績を総合して評価を行う。

実技試験 2 回（９０％）＋平常点*（１０％）＝総合（１００％）

*平常点（授業参加点）：授業での発言，質問など，教員の主観も含まれる。

追再試験について：何らかの理由で定期試験が受けられなかった者（追試験）に対して追試験を行うことがある，しかし成績不良者に対しての再試験は行わない。

８．テキスト･参考文献

テキスト： 特になし

授業内容に応じて資料を配布する。

９．受講上の留意事項

実技の内容によっては服装の指定がされることがある。該当する授業の前週での授業にて指示があるので常に従うこと。講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は，定期試験の受験資格を失うこととする。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，接骨院やプロスポーツチームにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（陸上競技）	実習	准教授　諏訪　利成	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322101 11531103 12220103 12531103 13220108 13531103

１．授業のねらい・概要

多くのスポーツの原点と言える陸上競技について，基礎技術および指導法の習得を目指す。また，正しいランニング技術，トレーニング方法を学ぶことで，スポーツの素晴らしさを伝えられる指導者の育成を目的とする。

２．授業の進め方

授業は実技を中心に屋外グラウンド，または体育館で行うが，技術理解を深めるために講義を行う場合もある。

３．授業計画

１．ガイダンス～本講義の概要説明(教室にて)	９．ハードル種目の技術～歩幅と抜き足技術
２．ウォーミングアップの方法，ストレッチ	10．ハードル種目の技術～タイムトライアル
３．ランニング～基礎知識とランニングフォーム	11．投てき種目の技術～砲丸・ハンマー
４．ランニング～効率的走法の習得	12．投てき種目の技術～ヤリ・円盤
５．短距離走の技術～スタート準備と姿勢	13．リレー種目の技術
６．短距離走の技術～中間走の動きとゴール	14．長距離種目の技術
７．跳躍種目の技術～幅跳び	15．まとめ
８．跳躍種目の技術～高跳び	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

日頃から 20 分間ほど適度な運動を行っておく。また，実技内容をイメージできるよう写真やビデオ等で 30 分間ほどかけて事前に確認しておくことが望ましい。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日，各自に対応する。

６．授業における学修の到達目標

陸上競技の指導者として正しい知識を身につけて，指導現場で活かせるようにする。

７．成績評価の方法･基準

求められる実技がしっかり行えるか（50%），また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

８．テキスト･参考文献

随時指示する。

９．受講上の留意事項

実技を行う際には，運動に適した服装で参加すること。受講希望者が多い場合，人数制限を行う場合がある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（器械運動）(1) (2)	実技	非常勤講師　相原　誠	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの専門選択科目 教職科目 救急救命士コースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322102 11531102 12220104 12531102 13220107 13531102

１．授業のねらい・概要

器械運動器具（マット・跳び箱・鉄棒など）を使用して，『使い方，技の方法ならびに指導法』を習得することを目的とし，個人レベルでも，洗練された運動を努力や工夫によってできるようにする。また実技中における安全確保を最優先に考えながらも創意工夫された練習・態度を身につけると同時に教育者としての意識を高め，常に邁進向上に努める。

２．授業の進め方

毎時間，試験内容の技の練習を段階的に行ない習得することを目的とする。
また，その為の基本の体創り運動も取得する。

３．授業計画

１．オリエンテーション：器械運動の説明 （目的・方法・授業計画・評価法及び諸注意） 意識づけ ２．準備運動①：器具を使わないマット、跳び箱、鉄棒の導入 ３．準備運動②：倒立等の自分自身の体重を保持する ４．鉄棒①：鉄棒を使った準備運動 ５．鉄棒②：上がり（逆上がり）中技（前方支持回転、後方支持回転） ６．鉄棒③：上がり、中技の復習 下り技（横飛び越し下り） ７．マット①：マットを使った準備運動	８．マット②：前転、後転、側転 ９．マット③：倒立前転、伸膝前転 10．跳び箱①：跳び箱を使った準備運動 11．跳び箱②：開脚とび 12．跳び箱③：台上前転 13．試験用，規定演技の練習 14．練習のまとめ 15．まとめと復習

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

柔軟　日頃から 15 分間ほど柔軟を行い，ケガの予防に努める。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で，段階を追ったポイントを都度説明。
試験終了時に採用試験を見据えて，注意点や改善点を伝える。

６．授業における学修の到達目標

各種目別の準備運動の組み立て。各種目別の技習得への段階的な器具セッティング。
各技目標の達成。

７．成績評価の方法･基準

各項目となる運動（マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動）の試験結果（20%）・授業態度（80%）で総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

特になし。

９．受講上の留意事項

受講（運動）するにふさわしい服装及び態度。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本講義は，体操クラブでの指導経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（体つくり運動）	実習	准教授　諏訪　利成	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322103 11531101 12220105 12531101 13220106 13531101

１．授業のねらい・概要

「体つくり運動」は，自己の体力や生活に応じて，体の調子を整えるなどの体ほぐしをしたり，体力を高めたりすることをねらいとして行われる運動のことであり，全面的な体つくりを配慮しながら，個に応じた体づくりを行うとともに，「体ほぐし運動」や「体力を高める運動」の実践・指導ができる能力を身に付けることを目的とする。

２．授業の進め方

実技を中心に行う。運動の課題によって個人，グループ，全員で取り組み，互いに協力し安全に，しかも楽しみながら運動ができるようにすすめて行く。

３．授業計画

１．ガイダンス(教室にて)	９．「体力を高める運動」筋力を高める運動
２．「体つくり運動」とは	10．「体力を高める運動」スピードを高める運動
３．「体ほぐしの運動」ストレッチ	11．「体力を高める運動」柔軟性を高める運動
４．「体ほぐしの運動」器具を用いない運動	12．「体力を高める運動」瞬発力を高める運動
５．「体ほぐしの運動」縄跳び	13．「体力を高める運動」調整力を高める運動
６．「体ほぐしの運動」器具を用いた運動	14．総合体力を高める運動①（サーキット運動）
７．「体ほぐしの運動」マット運動	15．総合体力を高める運動②（球技）
８．「体力を高める運動」全身持久力を高める運動	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

日頃から 20 分間ほど適度な運動をし，体の調子を整えておく。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日，各自に対応する。

６．授業における学修の到達目標

個々の体力の向上を目的とし、実践した内容を自身以外の相手へ指導できるようになること。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組姿勢や参加態度などの平常点（100%）で評価する。

８．テキスト･参考文献

随時指示する。

９．受講上の留意事項

授業の目的を認識し，運動にふさわしい服装で出席すること。慢性的な疾病もしくは障害によって実技部分の受講に不安のある学生は事前に申し出ること。人数が多い場合は調整することもある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（サッカーＡ） 【スポーツ実技（サッカー）】		実習	准教授　山口　重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11322104 11322104 11532102 12220106 11532102 13220112 13532102

１．授業のねらい・概要

本科目は，サッカーの基本的なルールや基礎技術を学び，試合形式のゲームを通じてサッカーの魅力，楽しさを体験する。仲間とともにゴールや勝利の喜びを体感する。また，この授業を通して体力の増進を図る。

２．授業の進め方

初心者，経験者を問わずサッカーのルール・基本技術の習得と様々な形の試合形式を中心に行う。
雨天時は教室においてビデオを使用して，ルールの確認や海外の試合を見る。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．対人プレー　クワトロゲーム
２．基本技術の習得（パス，ボールコントロール）	10．対人プレー　７対７
３．基本技術の習得（ドリブル）	11．ゴール前の攻防
４．基本技術の習得（様々なキックの種類）	12．試合１１対１１　セットプレーの攻撃
５．アイスブレークの実践	13．試合１１対１１　セットプレーの守備
６．対人プレー　１対１	14．試合１１対１１　主審・副審の実践
７．対人プレー　３対１	15．まとめ
８．対人プレー　４対２	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

Ｊリーグや海外の試合を見ることでサッカーの技術・戦術の魅力を感じて欲しい，グランドレベルで再現できるかは別として真似をしてみようとイメージをつくる。当然，サッカーの１試合（90 分）を通して見ること。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中のプレーに対して留意点を指摘する。また，素晴らしいプレーに関しては褒める声掛けをしてモチベーションを上げる。

６．授業における学修の到達目標

サッカー観戦およびサッカーの試合を行うとき，指導を行うときにルールを十分に理解してサッカーを楽しむことが出来る。対戦相手，レフリー，チームメイトをリスペクトしてトレーニングや試合を行うことができる。

７．成績評価の方法･基準

授業の取り組み，技術，戦術の理解度（50%）。定期的に試験（リフティング等の技術）を行い，上達度を加味して（30%）
講義への参加意欲（20%）で評価する。

８．テキスト･参考文献

サッカー競技規則と実践的審判法（公益財団法人　日本サッカー協会審判委員会　制作）

９．受講上の留意事項

実技の際は，運動に適した服装・シューズで参加すること。また，時計・装飾品（ネックレス，ピアス，指輪）は外して参加すること，自分や他の人を傷つける可能性があるため。

運動に適さない服装で出席した場合は，授業の参加を認めない場合もある。

怪我をしていて参加できないときは怪我の状況を伝えて見学をすること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(バスケットボール)(1)(2)		実習	非常勤講師　棟方　公寿	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11322106 11532101 12220108 12532101 13220111 13532101

１．授業のねらい・概要

バスケットボールを通じて個々の運動能力，体力の向上を目指し，またチームの一員としてどのように役割を果たし，貢献できるかを考えることで，自己の責任とコミュニケーション能力の向上を目指す。さらに，教員を志望する学生は指導法を考えながら実施することを目指す。

２．授業の進め方

基礎的なスキル練習を行ないながら，1on1，2on2，3on3，4on4 などを経て，5on5 のゲームへと発展させる。

３．授業計画

１．ガイダンス（バスケットボールの概論） ２．導入(設備・用具・準備運動「ドリブルレイアップシュート」・5on5) ３．準備運動、ファンダメンタル(ドリブルの基本的な考え方⇒2 ボールドリブル) ４．準備運動、ファンダメンタル(ドリブルのタイプ⇒1 ボールドリブル ZigZag) ５．準備運動、ファンダメンタル(パスの基礎知識・パスの種類・キャッチ) ６．準備運動、1on1 の技術と戦術(オフェンス) ７．準備運動、1on1 の技術と戦術(ディフェンス)	８．準備運動、基本的スキル 5on5(Off・Def の基本) ９．準備運動、パス&ラン⇒2 メンカッティングムーブとスクリーンプレイ 10．準備運動、基礎的スキル 2on2⇒5on5(ハーフコート) 11．準備運動、基礎的スキル 3on3⇒5on5(ハーフコート) 12．準備運動、基礎的スキル 4on4⇒5on5(ハーフコート) 13．準備運動、5on5（ゲームの進め方) 14．準備運動、5on5（ゲームを楽しむ) 15．準備運動、5on5（ゲームとまとめ)

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

バスケットボールの最新ルールを事前に調べ，ある程度理解しておくこと(１時間)。個人のスキルに関して，可能な範囲で繰り返し練習をしておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業ごとにその日の練習のテーマに関して質問，感想，意見等を聞き，回答する。

６．授業における学修の到達目標

バスケットボールの基礎技術を身につけること。また，教員志望者は授業の展開の仕方，注意する点などを学び，教育実習に活かせるよう自分の指導法の選択肢を増やすことを目的とする。

７．成績評価の方法･基準

積極性などの平常点（60%），意欲態度（20%），知識技量（20%）。

８．テキスト･参考文献

特になし。必要があれば授業中に紹介，またはプリントを配布することがある。

９．受講上の留意事項

バスケットボールは比較的激しいスポーツであり，ダッシュやジャンプを繰り返し行なうため，服装はスポーツに適したものを着用し，シューズも可能な限り，衝撃を吸収する素材のものを使用すること。Gパンやチノパンなど，また外履きシューズの使用は認めない。Tシャツ，ジャージ等スポーツにふさわしい服装で臨むこと。
さらに，爪は短く切り，ネックレス，ピアス等は，危険なので外すこと。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(テニス)(1)(2)(3)	実習	教授　大森　肇 講師　成田　仁	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救命救急士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322107 11531105 12220109 12531105 13220113 13531105

１．授業のねらい・概要

本授業は，スポーツ文化としてのテニスを生涯にわたって楽しむための基礎づくりをねらいとしている。そのために，1)テニスの用具，施設・設備，技術，関連体力，ルール，マナー，戦術などの基礎知識を学び，2)テニスを実践し，3)学修の成果について考察することが求められる。

２．授業の進め方

基礎的な技術の理解と反復練習により段階的にレベルを上げ，ゲームへと発展させながらルール・マナーも身につける。

３．授業計画

１．知識（コート，ラケット，グリップ），ラケットワーク ２．フォアストローク（素振り，ショートラリー） ３．フォア&バックストローク（素振り，ショートラリー） ４．フォア&バックストロークを用いたロングラリー ５．シングルスゲーム導入（初級：ショート，中級：半面） ６．フォアボレー導入（キャッチ，手の平ボレー，短く持ってボレー） ７．フォア&バックボレー（交互にボレー，ボレー&ボレー） ８．サービス導入（キャッチボール，素振り，ヒット）	９．スマッシュ導入（素振り，ヒット） 10．ダブルスゲーム導入（ルール，進行，マナー） 11．ダブルスゲーム導入（戦術） 12．ダブルスゲーム（班別対抗戦１） 13．ダブルスゲーム（班別対抗戦２） 14．ダブルスゲーム（班別対抗戦３） 15．ダブルスゲーム（班別対抗戦４）

４．準備学修に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

本授業の内容を修得するためには段階的な積み重ねが大事である。授業後，当日中に授業内容を知識・実践・考察の観点で整理しておくこと。この事後学修には１時間程度が必要である。それが次回に向けての準備学修になる。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業自体が発展的課題となっている。課題に対する成果について，授業内で全体的・個別的にフィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

1)テニスの用具，施設・設備，技術，体力，ルール，マナー，戦術などの基礎知識を学び，2)テニス実践を通して上達し，3)学修の成果について考察することを目標とする。

７．成績評価の方法・基準

意欲・態度（30%），知識・理解（30%），技術（40%）を総合的に評価する。

８．テキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

９．受講上の留意事項

運動に適した服装とテニスシューズかそれに準ずる靴を用意する。コート面数の関係で受講人数の調整をする場合がある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

日本テニス協会の１級公認指導員の資格を持ち、多数の民間テニススクールでの指導経験を有する教員がそのキャリアを活かして授業を実施する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（ソフトボール）	実習	教授　谷口　英規	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目，教職科目，柔道整復師コースの教養選択科目，救急救命士コースの教養選択科目	ナンバリング	11322108 11531104 12220110 12531104 13220117 13531104

１．授業のねらい・概要

ソフトボールは，「投げる・打つ・走る」などの運動の基本動作から構成され，バランスのとれた運動能力を養うことができる。また，役割を区分しやすい競技であるため，自他の能力の活かし方を考え，チームスポーツで必要とされる協調性や責任感を養い，ソフトボールにおけるルールや安全面での配慮や留意事項等の知識を学習することにより，ソフトボールの指導方法や運営方法を身につけることを目的とする。

２．授業の進め方

基本的な技術を習得するため、グラウンド・屋内練習場での実技が中心となる。また，天候によっては教室でルールや戦術といった講義形式で実施し，レポート提出を課す場合もある。

※授業の進行状況により内容等が変更になる場合もある。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．ゲーム①（短いイニングを役割決めて行う）
２．投球の基礎技術（グラブの使い方、キャッチボール）	10．ゲーム②（短いイニングで基礎戦術を学ぶ）
３．守備の基礎技術（グラブ操作、ゴロ捕球、フライ捕球）	11．班別対抗戦①（ケースを決めて走・攻・守を行う）
４．投手の基礎技術（ウィンドミル投法）	12．班別対抗戦②（ケース毎に戦術を立てる）
５．ノックの基礎技術（内野手および外野手へのノック）	13．班別対抗戦③（これまでの基礎技術を活かす）
６．チームでの守備連携（併殺プレー、シートノック）	14．班別対抗戦④（スコアの書き方を学ぶ）
７．打撃の基礎技術（トスバッティング、ティーバッティング）	15．班別対抗戦⑤（まとめ）
８．走塁の基礎技術（ベースランニング・打球判断）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

ソフトボールのルールを事前に調べ，自分の言葉で説明できるようにする為の準備学修に１時間以上必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際，出題意図および回答を提出期限最終日に解説する。

６．授業における学修の到達目標

ソフトボールの基礎技能を理解し，指導するうえで，必要な基本的な動作「投・捕・打・走」を身につけること。また，体育教員（中学校・高校）やスポーツ少年団などの各地域でのスポーツ指導者として，必要な知識（ルール・戦術）及び安全面の配慮などの留意事項等を学び，正しく安全に指導ができる力を身につけることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

技術の習熟度及び授業への取り組み（70%），期末試験としてのレポート課題（30%）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

ソフトボール　最強の戦術　　メイツ出版　安藤美佐子（￥1.404）

ソフトボール　監督・コーチ入門　　池田書店　宗方貞徳（￥1.296）

９．受講上の留意事項

実技が中心のため運動に適した服装で出席すること。また，実技を行うことを考慮し受講者数を調整する場合もある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(ダンス)(1)(2)	実技	非常勤講師　河野　さゆり	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322109 11531108 12220111 12531108 13220114 13531108

１．授業のねらい・概要

色々なジャンルの音楽に合わせて，身体を自由に表現する楽しさを体験する。
ソロでは自己表現，グループでは協力しながら創作する経験を学んで欲しい。

２．授業の進め方

実技を中心に進めていく。

３．授業計画

１．ガイダンス ２．基本の体づくり ストレッチ・アイソレーション ３．基本の体づくり 体幹の使い方・基本のステップ ４．レクリエーションダンス 年代に合わせたダンスの基本（幼少年期） ５．レクリエーションダンス 年代に合わせたダンスの応用（幼少年期） ６．現代的なリズムのダンス 基本の振りを習得 ７．現代的なリズムのダンス 自己表現の表し方 ８．現代的なリズムのダンス 規定演技の習得	９．エアロビクスエクササイズの基礎 基礎的なステップ 10．エアロビクスエクササイズの基礎 低強度のステップの実習と構成 11．エアロビクスエクササイズの基礎 中強度のステップの実習と構成 12．エアロビクスダンス チームエアロビックダンスの構成 13．エアロビックダンス チームエアロビックダンス作品の編集 14．エアロビクスダンス チームエアロビックダンス作品の仕上げ 15．作品発表の準備 規定演技とグループ作品の総仕上げ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに，前回の授業内容（振りや構成など）を必ず復習しておく。
この準備学修には１時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験（作品発表）やレポート提出の際，評価のポイントを試験終了（レポート提出）直後に説明する。

６．授業における学修の到達目標

正しい体の使い方や動き方を身に付けて，身体を自由に表現できるようになる。

７．成績評価の方法･基準

授業への取り組み（50%），実技試験（30%），レポート（20%）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

必要に応じて資料を配布する。

９．受講上の留意事項

運動に適した服装で参加すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（水泳）	実習	非常勤講師　野村　孝路	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコース，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322110 11531104 12220112 12531104 13220109 13531104

１．授業のねらい・概要

幼児から高齢者まで幅広い年齢で楽しめる水泳の特性にふれることで，水泳指導員の養成を目的とした（財）日本水泳連盟アシスタント指導員資格検定試験に基づく，資質・知識・技術の習得を図る。

そのため，水泳指導に必要な基礎・応用･実践技術・補助技術を身につけ，初心者指導法および各種泳法（バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・クロール），さらに救助法・救急法を理解し現場における救急処置が行なえる技量を身につける。

２．授業の進め方

教本の内容に沿った泳法指導を基本とするが，随時，泳力別にグループ分けし個別的な課題を明確にし，具体的な出練習法・指導法を取り上げて実践的なポイントを説明し練習する。また，理解の定着を図るため，実技問題および関心意欲・態度を促す所感を筆記させる課題を課すこととする。

３．授業計画

１．水泳概説　　水慣れ，呼吸法，バランスの習得 ２．初心者指導法　　エレメンタリー泳法および補助技術の習得 ３．クロール初歩技術の習得と指導法 ４．クロール技術の応用（スピードの上げ方，スタート，ターン） ５．平泳ぎの初歩技術の習得と指導法 ６．平泳ぎの技術の応用（遠泳，スピードの上げ方，スタート，ターン）	７．背泳ぎの初歩技術の習得 ８．背泳ぎの技術の応用（スタート，ターン） ９．バタフライの初歩技術の習得 10．バタフライの技術の応用（スタート，ターン） 11．救助技術の習得（横泳ぎ，潜行） 12．蘇生法の習得 13．泳法指導の実際 14．５０ｍ個人泳法測定 15．まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講し，実技指導のポイントの配布資料を復習しておく。そのためには３０分程度が必要である。さらに，実技内容を毎回の授業で実践し，改善していく。これらの実技習得には，毎回の授業前後に２０分程度の陸での実技練習を行う。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験や机上試験の実施の際，解答のポイントおよび評価の観点を終了直後に説明する。

６．授業における学修の到達目標

水泳の競技特性の基本的な概要を理解して，現場での初心者指導が理論的に組み立てられ，安全かつ効果的に進めることができる。また本授業を通じて将来スポーツの指導者となれるよう資質向上に務める意欲を育む。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組み姿勢（50%）および実技テストおよびペーパーテストの結果（50%）によって，評価する。

８．テキスト･参考文献

テキストは，財団法人日本水泳連盟編　競技力向上指導者用『水泳教師教本教本』大修館書店をベースに毎回の授業を組み立てている。また，参考文献は適宜紹介する。

９．受講上の留意事項

受講の要件としては，受講生の健康診断や既往症を把握していることが重要である。水泳経験があることが望ましいが，そうでない場合も，理解でき，実践できるように授業を個別に対応し進めていく。疑問や不明な点については，遠慮なく質問してもらいたい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，学校及び地域スポーツ活動における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(スキー)

２０２６年度

休講

健康とスポーツＡ		講義	准教授　諏訪　利成	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11220130 11510102 12220146 12510102 13220125 13510102

１．授業のねらい・概要

自由時間の増大にともない，スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを考えることをねらいとする。スポーツという言葉は日常おおく使われるが，これから定義したり内容を限定しようとすると問題が多い言葉である。

そこで，スポーツ生活について言語学的な理解とスポーツについての理解を深め，スポーツ生活について考え，学生たちが屋外で行う健康的なスポーツとして幅広い教養とスポーツを享受する能力を高め，ゆとりある社会生活を営むことを考えていく講義にする。

２．授業の進め方

理論と実技を交えながら講義を行う。低下しつつある体力の回復を計ることを狙いとするとともにスポーツを通じて仲間づくりと，運動の量を確保しながら講義を進めて行きたい。

３．授業計画

１．ガイダンス（教室にて）	９．サッカー（②班別による練習ゲーム）
２．健康の考え方	10．ソフトボール（ルールの理解）
３．スポーツ活動	11．ソフトボール（簡単スコアの書き方）
４．実技種目の説明	12．ソフトボール（簡単スコアの書き方・練習ゲーム）
５．サッカー（ルールの理解）	13．ソフトボール（①班別による練習ゲーム）
６．サッカー（パスの練習）	14．ソフトボール（②班別による練習ゲーム）
７．サッカー（パスの練習・練習ゲーム）	15．まとめ（歴史についての理解）
８．サッカー（①班別による練習ゲーム）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分ほどかけて，書籍などにより各種目のルールを理解しておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日，各自に対応する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを理解し，実践できることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

求められる実技がしっかり行えているか（50%），また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

８．テキスト･参考文献

随時指示する。

９．受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。受講人数が多い場合は調整することもある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

運動トレーニング論Ｂ		講義	准教授　諏訪　利成	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11322115 12220115 13220120

１．授業のねらい・概要

現代は機械化にともない以前は歩かなければならなかった場所に車や電車で到着することができる。最低限の体力さえあれば生きていくことができる。

日本人の平均寿命は世界でも有数であるが，長命と長寿は異なるのだと思う。

長命とは単に長生きすることで，長寿とは生きがい持ちつつ健康で長生きすることである。そのために体力がいかに大切であるかを考えてもらうことを狙いとする。

トレーニングを効果的に行うには体力を高めるだけでなく，技術を習得することも必要である。

この講義では，各個人に合わせた練習手段，回数，セット間の休憩などの観点から事例をあげ体力づくりの態度を養うことと，技術習得もあわせて行いたい。

２．授業の進め方

体力測定を実施し各自の体力の評価を行い、体力づくりのためのトレーニングの技術習得方法等を実践を交えながら行う。

３．授業計画

１．ガイダンス（教室にて）	９．体力テストとその活用（2）各自の評価
２．体力テストのねらい	10．集中力トレーニング（1）集中力とは
３．体力テスト方法とテスト項目	11．集中力トレーニング（2）注意集中タイプ
４．体力テスト（1）握力・上体起し・長座体前屈	12．集中力を高めるトレーニングの実際
５．体力テスト（2）反復横跳び・立ち幅とび	13．筋の収縮様式・静的収縮・動的収縮
６．体力テスト（3）持久走・50m走	14．プレッシャー，あがり，スランプの克服
７．体力テスト（4）ハンドボール投げ	15．まとめ
８．体力テストとその活用（1）項目別得点	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分間ほどかけて，トレーニングに関する参考文献を読んでおくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後，各自に対応する。

６．授業における学修の到達目標

体力向上と共にトレーニング内容について理解することと，説明できるようになることを目的とする。

７．成績評価の方法･基準

授業への取り組み姿勢（50%）および定期試験の結果（50%）で評価する。

８．テキスト･参考文献

別途指示する。

９．受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。慢性的な疾病もしくは障害によって実技部分の受講に不安のある

学生は，事前に申し出ること。受講希望者が多い場合，人数制限を行う場合がある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ指導論		講義	准教授　山口　重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11321101 11532108 12220116 12532108 13220122 13532108

１．授業のねらい・概要

スポーツには事故はつきものであり，指導者が法律上の責任を問われる場合がある。そうした事態を未然に防ぐためには，スポーツ指導者はさまざまな知識を身につけて，安全かつ楽しくスポーツに取り組める環境を作ることが大切である。

本講義は，財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」で定めるカリキュラムに基づいて行う。スポーツ指導者に必要な知識を身につけ，「スポーツを安全に，正しく，楽しく」指導し，「スポーツの本質的な楽しさ，素晴らしさ」を伝えることができる人材に育ってほしいと考えている。

２．授業の進め方

公認スポーツ指導者養成テキストを参考に進めていく。講義内容に関連したビデオの鑑賞なども行う。

また，与えた課題についてのレポートを提出してもらい授業内容の理解度を確認しながら展開していく。

３．授業計画

１．ガイダンス～本講義の概要説明	９．長期的な視野に立った競技者育成
２．指導者の役割とは	10．世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方
３．安全管理システムの構築	11．スポーツ事故のリスクマネージメント
４．プレイヤーと指導者の望ましい関係	12．スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
５．コーチングスキル	13．スポーツと人権
６．コーチングとティーチング	14．スポーツ仲裁
７．ミーティングの方法	15．まとめ
８．ミーティング実施のポイント	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習し，理解して自分の言葉で表現できるようにしておく。なお事前課題があれば予習をしておくこと。これらの学修には，２時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際，解答などを説明する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツ指導者としての正しい知識を身につけて，指導現場で活かせるようになる。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組み姿勢（50%）およびレポートの結果（50%）を総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

参考図書：「リファレンスブック」（公益財団法人　日本スポーツ協会）

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」（公益財団法人　日本体育協会）

９．受講上の留意事項

前期に行われる「コーチング論」の単位取得後の受講が望ましい。
受講時間数も単位修得に必要とされる科目のため，講義回数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ社会学(1)(2)	講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312101 12220117 13220118 11532104 12532104 13532104

１．授業のねらい・概要

オリンピックやワールドカップなど，世界的なスポーツイベントに対する国民の関心の高まりに象徴されるように，現代においてスポーツは強大な社会現象あるいは文化現象となりつつある。現代社会における生活や健康，さらには生きがいや福祉というキーワードはますます重要になっており，スポーツは私たちにとって必須の生活文化となりつつある。

人々はなぜスポーツを実施したり観戦したりするのだろうか。現代社会におけるスポーツの意味や価値をどのように理解するかは，種々のスポーツ指導者やスポーツ関連の職を目指すものにとって，専門性を問う基礎的な教養として非常に重要なことである。スポーツの起源や発展過程を歴史的な文脈で理解し，スポーツが人間や社会にとってどのような文化的な価値を有しているのか，社会学的な視点からの理解を深める。

２．授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また，隔回授業最後に課題を提出し，授業内容の理解度を確認する。適宜，社会におけるスポーツの課題に関する新聞記事や資料を配布する。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツの概念と歴史①（スポーツとは何か，スポーツの歴史的発展） ３．スポーツの概念と歴史②（スポーツの社会的システム） ４．文化としてのスポーツ①（日本人のスポーツ観） ５．文化としてのスポーツ②（スポーツマンシップとフェアプレイ） ６．社会の中のスポーツ①（スポーツの多様化） ７．社会の中のスポーツ②（スポーツマンガの社会学） ８．社会の中のスポーツ③（スポーツの産業化，スポーツと経済）	９．学校の運動部活動をめぐる問題①（教員の過重負担） 10．学校の運動部活動をめぐる問題②（部活動の地域展開） 11．みるスポーツとは何か（スペクテイタースポーツの理解） 12．障がい者とスポーツ 13．こどものスポーツ環境を考える 14．スポーツと暴力の社会学 15．現代社会におけるスポーツの課題（新しいスポーツのかたち）

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し，疑問点を明確にしておくこと。また，次回の講義内容に関する情報収集をしておくこと（新聞記事などを事前に配布することもある）。これらの自主学修には２時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後，解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また，授業時の課題については，次回の授業内で優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。

６．授業における学修の到達目標

スポーツの文化的な価値や意義を理解し，社会学の視点から現代社会におけるスポーツの在り方を思考する力を身につける。

７．成績評価の方法･基準

期末レポート（50%），授業時における課題（30%），授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

参考文献：森川貞夫・佐伯年詩雄　編著「スポーツ社会学講義」（大修館書店，2009）

山田明編　「未来を拓くスポーツ社会学」（みらい，2020）

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

コーチング論		講義	准教授　山口　重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11321102 11532107 12220118 12532107 13220121 13532107

１．授業のねらい・概要

近年のライフスタイル変化にともない，スポーツは人々の生活を豊かにするために欠かせない要素の一つとなってきた。スポーツジムやフィットネスクラブなど施設を利用したものに限らず，スポーツ教室のように地域の人々が集まって取り組むケースも多く見られ，スポーツ指導者を求める声も高まってきている。

本講義は，公益財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」で定めるカリキュラムに基づいて行う。スポーツのコーチングに関するさまざまな知識を身につけ，「スポーツを安全に，正しく，楽しく」指導し，「スポーツの本質的な楽しさ，素晴らしさ」を伝えることができる人材に育ってほしいと考えている。

２．授業の進め方

公認スポーツ指導者養成テキストを参考に進めていく。講義内容に関連したビデオの鑑賞なども行う。

また，与えた課題についてのレポートを提出してもらい授業内容の理解度を確認しながら展開していく。

３．授業計画

１．ガイダンス～本講義の概要説明	９．指導計画の立て方
２．スポーツ指導者とは	10．スポーツ指導計画の重要性
３．スポーツ環境からみた指導者の役割	11．指導計画の検証
４．指導者の心構え・視点	12．ドーピング防止に必要な知識
５．スポーツ指導者のコミュニケーションスキル	13．スポーツ活動と安全管理
６．一貫指導とそのシステム化の重要性	14．安全確保のための具体的行動
７．発達発育とスポーツ	15．まとめ
８．時代をリードするコーチング（女性コーチの活躍）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習し，理解して自分の言葉で表現できるようにしておく。なお事前課題があれば予習をしておくこと。これらの学修には，２時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際，解答などを説明する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツにおけるコーチングの知識を身につけて，指導現場で活かせるようになる。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組み姿勢（50%）およびレポートの結果（50%）を総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

参考図書：「リファレンスブック」（公益財団法人　日本スポーツ協会）

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」（公益財団法人　日本体育協会）

９．受講上の留意事項

受講時間数も単位修得に必要とされる科目のため，講義回数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

経済学基礎①②		講義	准教授　小松原　崇史	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11120104 12220119 13220101

１．授業のねらい・概要

本授業では，経済学の中でも，とくにミクロ経済学についての基礎的な考え方を説明します。経済における一般的な法則を見出そうとすることが，ミクロ経済学の目指していることです。

２．授業の進め方

講義形式で授業を行います。授業の理解を深めるため，問題演習を行うことがあります。なお，履修者の理解度に応じて，以下の授業計画を変更する可能性があります。

３．授業計画

１．この授業の目的	９．前半のまとめと復習
２．市場とは	10．市場均衡とは
３．需要（需要曲線）	11．市場均衡の変化
４．需要（個人の需要と市場の需要）	12．応用問題①（価格の規制）
５．需要（需要曲線のシフト）	13．応用問題②（薬物の取締）
６．供給（供給曲線）	14．応用問題③（農業の発展）
７．供給（個人の供給と市場の供給）	15．後半のまとめと復習
８．供給（供給曲線のシフト）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後，その回の内容を復習してください。そのためには，毎回１，２時間程度が必要です。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題の解答を，授業内に解説します。

６．授業における学修の到達目標

目標は，経済学の基本的な考え方を，理解できるようになることです。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（100%）によって，成績を評価します。

８．テキスト･参考文献

参考書として，N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 Ⅰ　ミクロ編（第４版)』(東洋経済新報社，2019 年)を使用します。

９．受講上の留意事項

私語を厳禁とします。守れない学生に対しては直接注意を行い，改善が見られない場合には退出を求めます。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

マーケティング基礎①②	講義	教授　大澤　秀一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120106 12220120 13220102

１．授業のねらい・概要

マーケティングは一言で言うと「買ってもらう仕組づくり」です。顧客価値の創造と提供を行う経営活動の総称と表現することもできます。授業ではマーケティングの基礎を体系的に学びます（１セメスターで完結)。市場分析、顧客ニーズの把握，価値ある製品・サービスの開発，戦略的な価格付け、宣伝と販売戦略，顧客エンゲージメントの獲得というプロセスを学んだ後，複数の業種・業界のケーススタディを取り上げることで実践的な知識を身に付けます。マーケティングを入口にしてビジネスに興味を持ち，学び続けるための基礎を習得することがねらいです。

２．授業の進め方

授業は講義形態で行い，理解度を確認する小テストを３回繰り返しながら概ね以下の内容に沿って進めます。

３．授業計画

１．授業の概要説明	９．デジタルマーケティング　②ＳＮＳ
２．マーケティングの分析フレームワーク	10．デジタルマーケティング　③パーソナライズ
３．市場分析／市場細分化／選定／ポジショニング	11．第２回小テスト
４．マーケティングミックス　①製品戦略	12．ケーススタディ　①製造業
５．マーケティングミックス　②価格戦略と③流通戦略	13．ケーススタディ　②小売業
６．マーケティングミックス　④プロモーション戦略	14．第３回小テスト
７．第１回小テスト	15．総まとめ
８．　デジタルマーケティング　①マイクロ	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前配布される講義資料を予習し，あらましを把握してから授業に臨んでください。授業内容の定着と論点整理のための復習も重要です。予習・復習に２時間以上かけて疑問点や不明点が無くなるまで学修してください。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各小テストの次の授業で出題の意図と解答のポイントを説明します。

６．授業における学修の到達目標

メディアなどで報道されるマーケティング関連の情報を理解し，他の人と議論出来るようになることや，自らがマーケティングを学び続けるための基礎を習得することを目標とします。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組姿勢(50%)と小テストの結果(50%)によって評価します。

８．テキスト･参考文献

オリジナルの講義資料を使用します。必要に応じて参考文献などを適宜紹介します。

９．受講上の留意事項

初回の授業で説明します。授業への主体的な参加を期待します。疑問や不明な点については，遠慮せずに授業などで質問しましょう。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，シンクタンクや金融機関における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

情報社会とコンピュータ		講義	准教授　関川 弘	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11120103 12220121 13220103

１．授業のねらい・概要

コンピュータに関する技術は急速に進歩している。今日では人工知能を活用した新しいサービスが次々登場し社会のあらゆる分野に浸透しつつある。このような情報社会において，日常生活，企業活動，地域活動をスムーズに行うためには，コンピュータの基本的な仕組みを学ぶとともに，人工知能やデータの利活用に関する理解を深める必要がある。本講義では，数理・データサイエンス・AI のリテラシーレベルの素養を身に付ける。

２．授業の進め方

配布資料を基にした講義形式で進める。毎回，講義後に授業内容のサマリーの提出を求め，その内容について講義でディスカッションする。また，海外の文献や雑誌に掲載されている英語による最新記事や動画を用いて関連動向について検討する。

３．授業計画

１．コンピュータでデータを作る	９．データの処理
２．新たな社会の発展段階	10．企業における情報システムと AI の活用
３．ビッグデータの収集，蓄積，活用	11．観光をデータから見る
４．人工知能と機械学習を知る	12．医療とディジタル
５．コンピュータからおすすめ情報が出る	13．情報セキュリティに対する脅威と脆弱性
６．情報を見える化する	14．情報セキュリティ対策
７．データを読み取る	15．個人情報の保護と活用
８．データの説明	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備として１時間程度，インターネットや関連文献を用いて調査すること。毎回の講義終了後３０分程度，学習した内容をどれだけ多く，正確に説明・解説できるか自身で試みること。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

回答のポイント，及び出題の目的を説明した資料を配布する。また，毎回の講義で質問を受け付ける。レポート提出を求める場合，次回講義で，いくつかのレポートを事例に取り上げアドバイスを行う。

６．授業における学修の到達目標

情報社会とコンピュータ，データサイエンスに関する理解を深め，関連する時事トピックや書籍を理解できるようになる。また，コンピュータやデータを適切に利用できるようになる。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（50%）と毎回講義後に提出を求める講義サマリー（30%），授業への貢献度（20%）で評価する。サマリーについては，どれだけ多く思考したかを基準に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書をもとに講義するので「データサイエンス入門」（共立出版，豊田修一，樽井勇之）を必ず購入すること。参考文献は適宜紹介する。

９．受講上の留意事項

情報社会のプラス面とマイナス面を理解しバランスの取れた見識を養うこと。また，新聞やインターネットを通して新しい情報技術とその可能性に対する関心を持つこと。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，情報システム開発会社における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

哲学の基礎

２０２６年度

休講

哲学の展開

２０２６年度

休講

倫理学の基礎

２０２６年度

休講

倫理学の展開

２０２６年度

休講

日本史概説		講義	教授　中村　光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220105 12220126 13220131

１．授業のねらい・概要

日本の歴史を時代区分した場合，古代・中世・近世・近現代の４つに分ける考え方がある。もし１セメスターの中でこれらすべてを網羅的に見ていくとすると，一つの時代についておよそ 3，4 コマで対応することになるが，それでは大学生にとっての教養科目としてあまりに茫漠たる内容とならざるをえない。

そこで，本講義は対象を 8，9 世紀のおよそ 200 年間にしぼり，その間のわが国の政治，社会，文化の様相を見ていくことで日本史の概説にあてたいと思う。

対象をこの時期とした第一の理由は，講義担当者がこれまで 8，9 世紀史を主な研究対象としてきたことである。第二の理由は，「律令国家」の時代と呼ばれるこの時期に，前近代を規定する様々な法制度が確立されていること，また，この時期に都の置かれた奈良･京都が古都として，今日でも日本人のいわば「心のふるさと」としての地位を占めていると考えるからである。高校の日本史の時間であればわずか数時間の講義で終えてしまう部分を，じっくりと解説していきたいと考えている。

２．授業の進め方

講義形式で授業を進めるが，受講生の理解をより深めるため，パワーポイント等のＡＶ機器を活用したいと思う。

３．授業計画

１．７世紀後半期の東アジア情勢と目本	９．奈良朝政治の諸相④　称徳・道鏡政権
２．律令国家の構造①―統治のしくみ	10．光仁から桓武へ
３．律令国家の構造②― 一般農民の生活と税の負担	11．『万葉集』の時代
４．藤原京から平城京へ	12．征夷と造都
５．奈良仏教	13．三代の平安
６．奈良朝政治の諸相①　長屋王の悲劇	14．平安貴族の生活
７．奈良朝政治の諸相②　天然痘と奈良朝政治	15．まとめ ―律令国家二百年をふりかえって
８．奈良朝政治の諸相③　藤原仲麻呂政権	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を，次回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には，2 時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際，受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

６．授業における学修の到達目標

「日本古代史」について理解を深め，講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

７．成績評価の方法・基準

試験の結果（70%），授業への取組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

８．テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず，必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため，ノ

ートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので，図書館を利用するほか，新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

９．受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって，けっして十分条件ではない。また，授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書，投影したものを単に写していくだけでは，本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。なお，本講義では歴史上の人物や法令など固有名詞が頻出するので，あらかじめ高校程度の日本史の知識を修得しておいてほしい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

文化交流史	講義	教授　中村　光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220106 12220127 13220132

１．授業のねらい・概要

「島国日本」という言葉から，我々は前近代においては，日本が政治的あるいは文化的に他国から孤立した存在であったと考えがちである。しかし，鎖国体制下の時代においてでさえも，わが国が中国・朝鮮をはじめ東アジアの各国と密接な結びつきを持ち，それらの国々からの強い影響を受けてきたことを見落としてはならないだろう。また，世界史的には「大航海時代」と呼ばれる時代には，遠くスペイン･ポルトガル･オランダ等の国々とも交流があったことも忘れてはならない。本講義では，主に前近代を対象として，列島へのヒトの移動をプロローグとし，そこから通史をたどる形を取りながら日本に対する諸外国からの文化の伝播，あるいは逆にそれらの国々への日本文化の与えた影響について考えていきたいと思う。

基本的には１コマで一つの事例を取り上げる形で講義を進める予定である。なお，半期という期間の問題もあり，トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

２．授業の進め方

講義形式で授業を進めるが，受講生の理解をより深めるため，パワーポイント等のＡＶ機器を活用したいと思う。

３．授業計画

１．東アジア世界の中の日本	９．勘合貿易と室町文化
２．「日本人」はどこから来たか	10．キリスト教の伝来と南蛮文化
３．「魏志倭人伝」は語る	11．鎖国体制と蘭学の時代
４．仏教の伝来と日本人の宗教観	12．琉球王国と薩摩藩
５．遣唐使と正倉院の文物	13．北方との交流
６．朝鮮・渤海との交流	14．開国と維新
７．上野三碑と渡来人の入植	15．近現代への展望―まとめにかえて
８．平氏政権と日宋貿易	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を，次回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には，2時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際，受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

６．授業における学修の到達目標

「日本における文化交流の歴史」について理解を深め，講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

７．成績評価の方法・基準

試験の結果（70%），授業への取組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

８．テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず，必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため，ノートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので，図書館を利用するほか，新

書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

９．受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって，けっして十分条件ではない。また，授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書，投影したものを単に写していくだけでは，本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本文化概論		講義	教授　中村　光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220107 12220128 13220133

１．授業のねらい・概要

「日本文化」あるいは「伝統文化」という言葉を聴いて，諸君はいかなるイメージを頭に描くだろうか。能や歌舞伎，文楽といった伝統芸能の数々を思い浮かべる者もいるであろうし，寺社や城といった建造物，そこに収められている様々な工芸作品，あるいは寿司や蕎麦といった和食のメニューを考える者もいるかもしれない。もちろん，この問いには何が正しく何が間違っているという解答はない。我々の祖先が営んだ生の中で形作られてきた，有形･無形のさまざまな遺産を総称して「日本文化」「伝統文化」と捉えることができるのではないだろうか。

本講義は主に前近代を対象として，基本的には１コマで一つの事例を取り上げることで，時には外国からの強い影響を受け，また時には固有の展開を見せながら発展してきた「日本文化」，及びそれを構成した様々な要素（文物，芸能，その他）を紹介していきたいと考えている。

もとより，半期という期間の中で「日本文化」を網羅的に述べることは困難であり，トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

２．授業の進め方

講義形式で授業を進めるが，受講生の理解を助けるためパワーポイント等の AV 機器を活用したいと思う。

３．授業計画

１．「日本文化」を概観する－導入	８．火縄銃 ―技術の移入
２．縄文と弥生	９．茶の湯 ―極小の宇宙
３．古墳	10．城郭 ―多賀城と姫路城
４．神社と寺院 ―固有と外来	11．伝統芸能① ―能楽
５．東大寺廬遮那大仏 ―８世紀の国家プロジェクト	12．伝統芸能② ―歌舞伎 13．浮世絵 ―ジャポニスムへの影響
６．平等院鳳凰堂 ―浄土への思い	14．寿司・蕎麦・天ぷら―「和食」の成立
７．金閣と銀閣 ―禅の文化	15．近現代への展望 ―まとめにかえて

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を，次回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には，2 時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際，受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

６．授業における学修の到達目標

「日本文化」について理解を深め，講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有する。

７．成績評価の方法・基準

試験の結果（70%），授業への取組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

８．テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず，必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため，ノ

ートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので，図書館を利用するほか，新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

９．受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって，けっして十分条件ではない。また，授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書，投影したものを単に写していくだけでは，本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

群馬の歴史と文化		講義	教授　中村　光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220108 12220129 13220134

１．授業のねらい・概要

本学部には，県内出身者のほか，近県，遠くは外国からの留学生も多数在籍している。そして，県外出身者はもちろんのこと，県内出身の大部分の学生にしても，本学の２つのキャンパスが置かれている群馬の地がどのような歴史を辿ってきたのか，おそらくこれまでそれほど深く意識し，学んできたことはなかったのではないだろうか。

本科目では，人生の中の貴重な４年間を過ごすことになる群馬県域（明治時代以前は大方は上野国）がどのような歴史を歩んできたのか，古代から現代まで，主に時代を下る形で講義していきたいと思う。もとより，半期という期間の中で「群馬県の歴史」を網羅的に述べることは困難であり，トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

２．授業の進め方

講義形式で授業を進めるが，受講生の理解を助けるため，パワーポイント等のＡＶ機器を活用したいと思う。

３．授業計画

１．群馬の夜明け	９．縁切寺満徳寺
２．古墳時代の群馬県地域	10．天明の浅間焼け
３．上野三碑とその時代	11．温泉大国群馬
４．「三十八年戦争」と上野国	12．群馬県の誕生
５．『延喜式』に見る古代の上野国	13．富岡製糸場と新町屑糸紡績所
６．新田義貞と上野の武士	14．工業都市太田の原点
７．戦国時代の上野国	15．今日の群馬
８．中山道上州路を歩く	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を，次回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には，2時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際，受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

６．授業における学修の到達目標

「群馬県域の歴史と文化」について理解を深め，講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

７．成績評価の方法・基準

試験の結果（70%），授業への取組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

８．テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず，必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため，ノートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので，図書館を利用するほか，新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

９．受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって，けっして十分条件ではない。また，授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書，投影したものを単に写していくだけでは，本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

群馬の産業

２０２６年度

休講

スポーツと文化	講義	教授　平沢　信康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220110 12220131 13220135

１．授業のねらい・概要

今日，世の中には様々なスポーツ競技種目が存在する。世界中の人々がプレーを楽しみ，また地球上の数多くの人々がスポーツを観戦している。本講義では，スポーツの歴史を先史時代や古代より現代まで，人類史的観点から多角的に考察するものである。

とくに文化史の視点から，ときには文化人類学的観点も交えながら，スポーツ史について検討する。テレビや新聞などで報じられる現代のスポーツ・ジャーナリズム情報とは異なる，世界史的教養を文明史の視点から深める講義としたい。

２．授業の進め方

基本的には，講義内容の概要を記したレジュメを G メールで事前配信し，その講義要旨に即して解説する。適宜 PowerPoint を活用してテーマに関係する画像をスクリーンに映して紹介しつつ，そのビジュアルな情報を以てレクチャーの発話・文字による理解を補う方法で進める。

よって受講生諸君には，講義要旨を読みつつ，スクリーンにも注視するよう努めてほしい。

３．授業計画

1．「スポーツ」とは何か？　― 語義と語法 2．スポーツの歴史 ― その概観と種類（類別） 3．オリンピックの歴史と文化 4．祭典・祝祭とスポーツ 5．スポーツと宗教 6．スポーツと社会階級 7．体育スポーツ施設の文化史 8．足で蹴る球技スポーツの歴史 ― フットボールとバスケットボールを中心に	9．近代フットボールの成立と派生形 10．球を棒等で打つ競技の誕生と歴史 11．体操という身体運動文化の近代史 12．近代球技スポーツの文化史 13．日本における近代スポーツの紹介と導入 14．近代日本におけるスポーツ文化の普及と発展 ― 学生野球の歴史を中心に 15．西欧諸国におけるスポーツクラブという組織文化

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

資料を pdf 版で事前送信するので，その講義要旨の当該ページを次回講義までに通読して予習（30 分程度）しておくこと。興味をひかれた情報については，受講者各自が所有するスマホ等で検索し，積極的に確認してもらいたい。

また講義終了後，講義要旨（レジュメ）の内容を読み返し，気になる事項や人名あるいは地図についてインターネットで検索して，あるいは関連文献で学習を深掘りし，復習（30 分程度）しておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期末試験について特に注意を喚起すべき事項（多かった誤答など）等の講評を G メールで履修者全員に対して配信することでフィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

文化としてのスポーツの創造・発祥や誕生の歴史（ルーツや創始者を含む）および文化としてのスポーツの国際的な伝播について理解を深め，説明できるようになることをめざす。

歴史のみならず，併せて世界の地理に関する認識・理解も高める。

７．成績評価の方法･基準

学期末に実施する筆記試験の点をもって評価する。

８．テキスト･参考文献

木村毅『日本スポーツ文化史』ベースボール・マガジン社，1978 年
ハイナー・ギルマイスター『テニスの文化史』大修館書店，1993 年
寒川恒夫編著『スポーツ文化論』杏林書院，1994 年
杉本厚夫『スポーツ文化の変容：多様化と画一化の文化秩序』世界思想社，1995 年
鈴木守，山本理人編著『スポーツ文化の現在（いま)』道和書院，2000 年
稲垣正浩編著『スポーツ文化の「現在」を探る』叢文社，2002 年
井上俊，菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房，2012 年

９．受講上の留意事項

講義中は私語を慎み，居眠りをしないこと。
可能な限り図書館に行って，上記参考文献をはじめとするスポーツ文化（史）の文献に親しむこと。
インターネットでの検索を厭わず，億劫がらずに，こまめに調べる態度と習慣を養うこと。
当該回の講義要旨全体を熟読して，復習すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

心理学概論

２０２６年度

休講

青年の心理

２０２６年度

休講

ビジネス法学入門		講義	教　授　吉田　一康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220114 12220134 13220139

１．授業のねらい・概要

ビジネスに関係する法律の基本的な事項について，幅広く概略を理解することを目標とします。

社会では，アルバイトをしたり，将来，会社に就職する場合，労働法が関係します。商品を買ったり売ったりする取引は民法などが関係します。お金をだまし取られたなどの場合は，詐欺について規定している刑法が関係します。このように，ビジネスに法律知識は必須であり，是非とも知っておかなければならない事項について学びます。また，2009 年から開始された裁判員制度についても理解します。

２．授業の進め方

①　50～60 分　配布するレジュメに従って，パワーポイントを使用して講義を行います。

②　30～40 分　配布する練習問題に回答して，その後，解答を行います。また，質問・意見があれば討議を行います。

３．授業計画

１．講義紹介	９．民法（債権）
２．法律とは（定義，強制力）	10．商法・会社法
３．憲法（ビジネス関係）	11．労働法
４．刑法（ビジネス関係）	12．スポーツ法（移籍規定など）
５．刑事訴訟（逮捕から裁判まで）	13．スポーツ代理人（契約交渉など）
６．裁判員制度	14．知的財産法（特許権，実用新案権など）
７．民法（総則）	15．民事訴訟（訴えたり，訴えられたり）
８．民法（物権）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読んでくること（１時間程度)。講義後，授業内容を復習して，レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（１時間程度)。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①　各講義で行う練習問題の後に，解答及び説明を行います。　　②　期末試験の後に，解答を行います。

６．授業における学修の到達目標

①　「六法」について，基本的な事項を理解できること。

②　議論がある法律問題について独自の価値観を形成すること。

７．成績評価の方法･基準

評価は，上記６に示した学修の到達目標を，ルーブリック評価表を基に４段階評価（A80 点以上　B70～79 点　C60～69 点　D（不可）60 点未満）で採点します。ルーブリック評価表に関する詳細は，第１回講義内で別途説明します。

具体的には，積極性 10～20%＋期末試験 80～90%で評価します。積極性は，受講態度や積極性で評価して，客観的に認識できる遅刻，私語・居眠りに対する注意の場合，減点します。期末試験の受験資格は，全講義の３分の２以上に出席した者とし，出題範囲は全講義で，特に上記６①を主とする専門的知識の理解度の確認をする穴埋め問題と，同②に関する記述問題を出題します。

８．テキスト･参考文献

毎回，レジュメと練習問題を配布し，テキストは使用しませんので，特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

① 伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門』（有斐閣双書，第４版，2005）1320 円
② 末川博編『法学入門』（有斐閣双書，第６版補訂版，2014）1650 円
③ 石川明編『フレームワーク法学入門』（不磨書房，2007）2640 円

９．受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や，遅刻・中途退席などの目立つ受講者については，評価を減点又は受講を制限します。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本国憲法		講義	教　授　吉田　一康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11220115 11510101 12220135 12510101 13220140 13510101

１．授業のねらい・概要

日本国民として知っておかなければならない国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解します。特に，最近，問題となっている憲法改正や皇位継承，自衛隊の海外活動については，論点を詳細に考察して，自分の意見を持つことを目的とします。また，2009 年から開始された裁判員制度に適切に対処できる準備をしておきます。

以上の学習を通じて，生命の尊厳を理解し，倫理観と責任感，幅広い視野を持った心豊かな人間性を身につけます。更に，国際的な視野を持って活動できる能力を有して国際平和の実現に寄与できる人間となることを目標とします。

「ビジネス法学入門」の基礎的な部分と関係します。

２．授業の進め方

① 50～60 分　配布するレジュメ（要約の印刷物）に従ってパワーポイントを使用して講義を行います。憲法の第１章「天皇」第１条から第 11 章「補則」第 103 条まで，重要事項について，基本的に条文番号順に説明します。

② 30～40 分　配布する練習問題に回答して，その後，解答を行います。また，質問・意見があれば討議を行います。

３．授業計画

１．講義紹介	９．社会権（生存権など）
２．憲法とは（憲法制定，硬性・軟性憲法）	10．財産権・人身の自由（財産権の不可侵など）
３．国民主権と天皇制（象徴天皇，皇位継承）	11．参政権（選挙権，被選挙権，公務就任権）
４．戦争放棄（自衛戦争，侵略戦争）	12．国会（二院制，国政調査権）
５．第９条関係（自衛隊の海外派遣）	13．内閣（議院内閣制，解散権）
６．憲法の主体（日本国民，外国人，法人）	14．裁判所（裁判員制度）
７．基本的人権（法の下の平等）	15．司法，財政，地方自治，憲法改正など
８．自由権（思想及び良心の自由など）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読んでくること（１時間程度)。講義後，授業内容を復習して，レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（１時間程度)。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 各講義で行う練習問題の後に，解答及び説明を行います。　② 期末試験の後に，解答を行います。

６．授業における学修の到達目標

① 国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解できるようになること。

② 戦争放棄や自由権などの政治問題について独自の価値観を形成すること。

７．成績評価の方法･基準

評価は，上記６に示した学修の到達目標を，ルーブリック評価表を基に４段階評価（A80 点以上　B70～79 点　C60～69 点　D（不可）60 点未満）で採点します。ルーブリック評価表に関する詳細は，第１回講義内で別途説明します。

具体的には，積極性 10～20％＋期末試験 80～90％で評価します。積極性は，受講態度や積極性で評価して，客観的に認

識できる遅刻，私語・居眠りに対する注意の場合，減点します。期末試験の受験資格は，全講義の３分の２以上に出席した者とし，出題範囲は全講義で，特に上記６①を主とする専門的知識の理解度の確認をする穴埋め問題と，同②に関する記述問題を出題します。

８．テキスト･参考文献

毎回，レジュメと練習問題を配布し，テキストは使用しませんので，特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

①小嶋和司・大石眞『憲法概観』（第７版）有斐閣双書　2011 年（2090 円）

②木下智史・只野雅人『新コンメンタール憲法』日本評論社　2015 年（5060 円）。

９．受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や，遅刻・中途退席などの目立つ受講者については，評価を減点又は受講を制限します。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

環境問題の科学Ａ

２０２６年度

休講

環境問題の科学Ｂ

２０２６年度

休講

日本列島の自然Ａ

２０２６年度

休講

日本列島の自然Ｂ

２０２６年度

休講

世界の自然と地理

A

２０２６年度

休講

世界の自然と地理

B

２０２６年度

休講

統計学の基礎 -データ処理入門-	講義	教授　竹内　成生	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220125 12220142 13220128

１．授業のねらい・概要

私たちは日ごろ各メディアを通じ，人口・年収といった様々な数値データを目にしている。しかし，その全てが正しいデータ処理と解釈がされているわけではない。統計とは様々なデータを客観的に取り扱い，正しく評価するためのツールであり，スポーツ分野でも広く利用されている。例えば，競技データの検討，スポーツ製品の市場評価などにも用いられており，その利用価値は高い。本講義では初学者からでも学べるように身近な現象を取り上げ，表計算ソフトや無料の統計ソフトを用い，データの取得やその分析体験を通して，データを正しく扱う能力と読み取る能力を養うことを目標とする。

２．授業の進め方

パワーポイント，板書等により授業を展開し，学生はコンピュータ教室で実際にＰＣを操作しながら，具体的統計手法を学ぶ。

３．授業計画

１．統計学とはなにか	９．帰無仮説と検定の概念
２．調査手法とデータの種類	10．検定用データの取得（履修者が実際に取得）
３．データの種類と代表値	11．相関分析Ⅰ（集計・基本統計量・散布図）
４．課題データの取得（履修者が実際に取得）	12．相関分析 II（相関係数と有意水準）
５．データ集計（集計・度数処理）	13．2 群の差の検定Ⅰ（対応のあるｔ検定）
６．データ可視化（図表による表現）	14．2 群の差の検定 II（対応の無いｔ検定）
７．データ分散Ⅰ（平均値と標準偏差）	15．総合演習
９．データ分散 II（信頼区間）	＊本講義はコンピュータ教室で行う。

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため，各テーマについて予め調べておくこと。加えて，各講義で学んだ各統計・データ処理手法について理解を深め，実際に処理できることが重要である。なお，各講義における準備学習時間は 2 時間程度を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に関する詳細解説は講義内にておこなう。また，最終課題のフィードバックは出題意図・解答ならびに理解すべき点等について最終課題終了後に実施する。

６．授業における学修の到達目標

本講義では，データ処理に関する基本的な実践能力の習得を目指す。具体的には EXCEL などの表計算ソフトや無料の統計ソフトを利用し，データを正しく扱う能力と読み取る能力を養うことを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

各回の課題実施状況（50%），最終課題（50%）を基準として総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

テキストは特に指定しない。参考図書は以下に加え，授業中に適宜紹介する。また，プリントを配布することがある。

参考図書：清水 優菜・山本 光 JASP で今すぐはじめる統計解析入門　講談社（ISBN-13: 978-4065292945）

９．受講上の留意事項

本講義ではPCを使ったデータ処理と統計の基礎を学ぶため，Microsoft Excelの基本操作が可能であることが履修条件となる（コンピュータリテラシB受講済み，もしくは同等の操作技能を有する)。また，講義内で各テーマに即したデータ取得を学生間相互で実施するあるため，積極的に参加することが重要である。履修希望者が定員を超えた場合には抽選となることがあるため，希望者は初回講義に必ず参加すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

生物学基礎		講義	教授　田中　基晴	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220126 12220143 13220104

１．授業のねらい・概要

生体の働きを学ぶに当たっての基礎を学習する。みなさんの仕事は身体機能を高める，または修復することが主な業務である。生体がどのような仕組みで動いているのかを理屈に沿って分かりやすく理解してもらいたい。長い進化の歴史の中で合理的に身体が進化してきたことを理解してもらいたいと思う。授業は高校生物の復習が中心となるが，生体の仕組みの奥深さに興味を持っていただきたい。そうすることで、自ら学ぶ意欲が湧いてくるであろう。

２．授業の進め方

基本的には，教科書およびプリントを用いて講義（OHP and/or 板書）を進める。授業最後にその日のまとめを入れる。

３．授業計画

１．はじめに	９．電気
2.世界を構成する物質	10. 遺伝情報
3.生体物質	11. 細胞分裂
4.身体内外の圧力	12.人体の階層構造（組織，器官）
5.細胞Ｉ（いろいろな細胞）	13.人体の階層構造（器官系）
6.細胞 II（細胞小器官）	14. ホメオスタシス
７．栄養，代謝	15.生体防御機構と免疫
８．栄養，代謝，エネルギー	

４．準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

１）予習（必要時間: 約 50 分）

a）第２回から次週の予習内容を伝える。下記のイ）−ロ）に示す２項目を学生に提示する。

イ）学習概要

ロ）受講するにあたり必要な専門用語の説明

２）復習（必要時間:約 40 分）

a）授業内容整理

各単元終了後に「まとめ」を提示して知識の確認を行うので，「まとめ」を十分理解，記憶するように復習する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

１）筆記試験

a）正解は貼りだす。

b）解説は，不正解問題を中心に行う。

６．授業における学修の到達目標

生物を化学物質で考えるとともに，生物の仕組みを化学物質の特性および化学の仕組みとして学習する。これらの知識は大人としての教養に資していただくとともに，スポーツや救急救命に役立ててもらいたい。

７．成績評価の方法･基準

１）成績評価の基準

主にスポーツに携わる者として最低限必要な生物学知識についての理解到達度によって成績評価を行う。

２）成績評価の方法

a）受講態度（出欠・遅刻・早退，スマホ閲覧，など）（30 %）。（スマホ閲覧を禁止しています）
b）筆記試験（70 %）。

８．テキスト･参考文献

テキスト：解剖生理学や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理　岡田隆夫　羊土社　2019 年
参考書：大森徹の生物基礎が驚くほど身につく 41 講　大森徹　文英堂　2018 年

９．受講上の留意事項

履修までに高校の生物（または生物基礎）を復習しておくこと。また解剖生理学を学習しておくことが望ましい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

化学基礎		講義	教授　田中　基晴	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220127 12220144 13220105

１．授業のねらい・概要

私達の体は化学物質から構成されている。スポーツをするにも，救急救命をするにも，化学物質，化学物質間の相互作用，及び反応を知っていると， さまざまな処置や対応について深く理解することができる。理解できると興味が湧き， 自ら学ぶ意欲が一層湧いてくるものである。授業は高校化学の復習が中心となるが， より実生活、スポーツに関連した化学を勉強することを目指している。

２．授業の進め方

基本的には，教科書およびプリントを使って講義（OHP and/or 板書）を進める。授業最後にその日のまとめを説明する。

３．授業計画

１．はじめに－物質の基本粒子	９．酸と塩基
２．化学結合	10. 酸化還元反応
３．物質と化学反応式	11. 典型元素の性質
４．物質の状態変化	12. 遷移元素の性質
５．気体の性質	13. 脂肪族化合物
６．液体の性質	14. 芳香族化合物
７．化学反応と熱	15. 高分子化合物と生活
８．反応の速さと平衡	

４．準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前に教科書の予定範囲を読み，大事そうだと思うところや分からないところをノートに書きながら，予習して下さい。分からないところに印をつけて下さい。また， ネットでもよいので語句の意味を確認しておくこと。

各単元終了後に「まとめ」を提示して知識の確認を行うので，「まとめ」を十分理解，記憶するように復習する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験

a)　正解は貼りだす。

b)　解説は，不正解問題を中心に行う。

６．授業における学修の到達目標

化学物質の特性及び化学反応の仕組みを学び，スポーツや救急救命に役立てる。

７．成績評価の方法･基準

１）成績評価の基準

主にスポーツに携わる者として最低限必要な化学的知識についての理解到達度によって成績評価を行う。

２）成績評価の方法

a)受講態度（出欠・遅刻・早退、スマホ閲覧など）(30%)。(スマホ閲覧を禁止しています)

b)筆記試験（70%)。

８．テキスト･参考文献

テキスト：「高校の化学」が一冊でまるごとわかる　竹田淳一郎　ベレ出版　２０１８年出版

９．受講上の留意事項

高校で学んだ「化学基礎」または「化学」を復習しておくこと。

10.［実務経験のある教員等による授業科目］の該当の有無

該当する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

美　術	実技	非常勤講師　澁谷 朋子	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220128 12220145 13220127

１．授業のねらい・概要

優れた絵画，美術作品を鑑賞することにより，芸術的感性のみならず人間性をも豊かにする。

また，絵，文字，文章を実際にかくことにより，表現することの喜び，かいたものを手紙として知人などに送る喜びを体験する。

２．授業の進め方

講義と実習の二本立てで行う。特に実際に画材（例　花，果物など）を見ながら絵を描き文章を書き添える。１回の授業でハガキ大のサイズの場合１～２枚程度を仕上げる。

なお実習に使う道具としては，青墨，筆（墨用，顔彩用各１本ずつ），顔彩 18 色，画仙紙はがき，すずり，筆洗い，梅皿など。

３．授業計画

１．私の絵手紙記念日。絵手紙の話と線の練習 （自分の名の一字を書く。） ２．いつも食べている果物，バナナなどを描いてみる。 （家族の名の一文字を書く。） ３．野菜（例 ピーマン）をハガキいっぱいに描いてみる。 （瓦当の“楽”の字を書く。） ４．春の花（例 ハナミズキなど）を描いてみる。 （多胡碑の一文字を書く。） ５．魚（例 メザシ）を描いてみる。 （いろはにほへとの模写） ６．民芸品，お土産品（例 こけしなど）を描いてみる。 （あいだみつをの文） ７．巻紙大の紙に手紙を描いてみる。（画材は自由）	８．エンピツ，ドローイングペンを使って絵を描く。 ９．花をハガキ２枚，ワイドハガキまたは少し大きめの紙に描いてみる。 10．有名な画家の絵（棟方志功，ピカソなど）を模写してみる。 11．ドクダミの花を描いてみる。 12．アジサイの花を描いてみる。 13．印を作り，暑中見舞いを描いてみる。 14．SDGs を意識した絵手紙を描いてみる。（例　ダンボール，かまぼこの板，空箱） 15．ハガキ以外のもの，石などに絵を描きペーパーウエイトなどとして使用する。

授業計画はあくまで予定で，その時その時での変更がありますのでご承知下さい。

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習は特にないが，授業で使用する画材などは持参することがある。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験やレポートは特にないが，製作した絵手紙は手紙としてポストに投函するか提出をする。

６．授業における学修の到達目標

絵と文字と文章から成り立つ絵手紙をかき，実際にポストに投函，または提出することにより心と心の交流を図る他，文章力の向上も目指し，かく力を育む。（書育）

７．成績評価の方法･基準

毎回の授業ごとに絵手紙を最低１枚以上仕上げる。（うまいへたは問いません）

１枚以上仕上げると満点とする。（ただし仕上げた絵手紙の講評は毎回必ず受け，ポストに投函する。）

８．テキスト･参考文献

小池邦夫　絵手紙の極意　日本放送出版協会　1999

その他の参考文献は授業時に随時紹介する。

９．受講上の留意事項

条件は特にありません。「絵手紙をかいてみたい。」というその気持ちだけです。

絵手紙は「ヘタでいい　ヘタがいい」です。ご一緒に絵手紙をかいてみませんか。

新しい世界が広がります。

※ 授業内容は，諸事情により変更することがあります。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

上武大学手がき文化研究所所長，上武大学絵手紙ギャラリー＆ミュージアム館長，日本絵手紙協会公認講師，及び各種絵手紙講座講師としての経験を活かし講義・演習を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

健康とスポーツＡ		講義	准教授　諏訪　利成	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11220130 11510102 12220146 12510102 13220125 13510102

１．授業のねらい・概要

自由時間の増大にともない，スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを考えることをねらいとする。スポーツという言葉は日常おおく使われるが，これから定義したり内容を限定しようとすると問題が多い言葉である。

そこで，スポーツ生活について言語学的な理解とスポーツについての理解を深め，スポーツ生活について考え，学生たちが屋外で行う健康的なスポーツとして幅広い教養とスポーツを享受する能力を高め，ゆとりある社会生活を営むことを考えていく講義にする。

２．授業の進め方

理論と実技を交えながら講義を行う。低下しつつある体力の回復を計ることを狙いとするとともにスポーツを通じて仲間づくりと，運動の量を確保しながら講義を進めて行きたい。

３．授業計画

１．ガイダンス（教室にて）	９．サッカー（②班別による練習ゲーム）
２．健康の考え方	10．ソフトボール（ルールの理解）
３．スポーツ活動	11．ソフトボール（簡単スコアの書き方）
４．実技種目の説明	12．ソフトボール（簡単スコアの書き方・練習ゲーム）
５．サッカー（ルールの理解）	13．ソフトボール（①班別による練習ゲーム）
６．サッカー（パスの練習）	14．ソフトボール（②班別による練習ゲーム）
７．サッカー（パスの練習・練習ゲーム）	15．まとめ（歴史についての理解）
８．サッカー（①班別による練習ゲーム）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分ほどかけて，書籍などにより各種目のルールを理解しておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日，各自に対応する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを理解し，実践できることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

求められる実技がしっかり行えているか（50%），また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

８．テキスト･参考文献

随時指示する。

９．受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。受講人数が多い場合は調整することもある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

健康とスポーツB		講義	准教授　諏訪　利成	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11220131 11510103 12220147 12510103 13220126 13510103

１．授業のねらい・概要

自由時間の増大にともない，スポーツを通してどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを考えることをねらいとする。スポーツという言葉は日常多く使われるが，これから定義したり内容を限定しようとすると問題が多い言葉である。

そこで，スポーツについて言語学的な理解とスポーツについての理解を深め，スポーツと生活について考え，学生たちが屋内で行える健康的なスポーツとして幅広い教養とスポーツを享受する能力を高め，ゆとりある社会生活を営むことを考えていく講義にする。

２．授業の進め方

理論と実技を交えながら講義を行う。低下しつつある体力の回復を計ることを狙いとするとともにスポーツを通して仲間づくりと，運動の量を確保しながら講義を進めて行きたい。

３．授業計画

１．ガイダンス（教室にて） ２．健康阻害要因 ３．スポーツと現代社会 ４．実技種目と歴史 ５．バスケットボール（ルールの理解） ６．バスケットボール（パス・ドリブル・シュート・練習ゲーム） ７．バスケットボール（ランニングパス・ランニングシュート・練習ゲーム） ８．バスケットボール（守備を中心とした班別によるゲーム）	９．バスケットボール（攻撃を中心とした班別によるゲーム） 10．バレーボール（ルールの理解） 11．バレーボール（パス・練習ゲーム） 12．バレーボール（トス・アタック，練習ゲーム） 13．バレーボール（守備を中心とした班別によるゲーム） 14．バレーボール（攻撃を中心とした班別によるゲーム） 15．まとめ（歴史についての理解）

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分ほどかけて，書籍などにより各種目のルールを理解しておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日，各自に対応する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを理解し，実践できることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

求められる実技がしっかり行えているか（50%），また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

８．テキスト･参考文献

随時指示する。

９．受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。受講人数が多い場合は調整することもある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

海外研修		実習	国際交流委員会	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーチトレーナーコースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220134

１．授業のねらい・概要

本講座は，他国の人との交流を通じて異文化を理解し，伝えることの楽しさや重要性を肌で感じ実践することで，積極性を養いコミュニケーション力の向上を図ることを目的とします。また，海外の国際機関，グローバル企業，日系企業，並びに様々な文化施設などを訪問，視察することで，海外の社会・文化・経済状況を実際に自分の目で見て現実を把握し，また一方で現在日本が置かれている状況を客観的に捉え，グローバルな視点を持ったビジネス展開を目指す学生にとって大きな刺激となる機会を提供します。本講座受講後，人生観や生活態度，学業に対する考え方が変化し，将来を見据えた計画・行動がとれるようになること，学生時代に何をすべきかをよく考え，自らの能力を高める行動がとれるようになることが期待されます。

２．授業の進め方

渡航前に計 3～4 回の事前講義を実施します。その後，現地に渡り，滞在期間中，多様な施設・機関・企業を訪問しながら，「絵手紙ワークショップ」を通して現地の方々と交流します。このほか，市内の文化施設などの視察を通じて，歴史や文化に触れる時間も確保します。なお，帰国後にレポートを提出することが求められます。

３．授業計画

１．渡航前：海外渡航に関する注意喚起，訪問先の基礎知識等に関する事前講義（3～4 回） ２．現地滞在中：絵手紙ワークショップ開催，各所訪問（国際交流，講話受講，所内視察等），市内視察等 ３．帰国後：レポート提出	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

渡航先の文化，気候，地理的情報，社会情勢等を調べておくこと。また，訪問予定先の機関・企業についてウェブサイト等で情報を収集・把握し，訪問当日に質問を投げかけられるようまとめておくこと（2 時間程度）。

パスポート，旅行保険，クレジットカード等の取得に関し，予め定められた期限までに各自しっかりと準備すること。日本国籍以外で，入国に際してビザが必要な学生は，然るべきタイミングで取得すること。なお，事前講義の無断欠席，ビザ取得の見込みなし等の事情が明らかになった場合，当該年度の参加を諦めてもらうことがあります。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

帰国報告会にて提出された研修レポートへのフィードバックと意見交換等を実施します。研修レポートについては個人の研修目標設定と達成状況について報告してもらいます。

６．授業における学修の到達目標

講義やゼミのような通常の座学では得られない経験を得ることで，改めて日本を客観的に見つめると同時に，より広い国際的視野を持ち，多くの人々とコミュニケーションを図れる能力を養成します。また，将来に対して積極的に考え，計画し，行動できるようにします。

７．成績評価の方法･基準

事前講義への参加状況と受講態度（70%），帰国後のレポート（30%）の提出等の状況を見て，総合的に評価します。

８．テキスト･参考文献

事前講義や現地訪問先で配布される資料を用います。

９．受講上の留意事項

① 訪問先や実施時期は別途告知し，実施にあたっての事前説明会を行う予定。
② 費用は，渡航費，宿泊費，各種視察費等で，合計 40 万円前後（参加人数により変動し，飲食代・娯楽代等は除く）を予定しています。
③ 人数が 10 名に満たない場合は本講座を催行しない場合があります。

10. 実務経験のある教員等による授業科目

該当します。本授業は，金融機関，製造業，サービス業界において海外勤務を含む実務経験を有する教員が指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツマネジメント研修		実習	国際交流委員会	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーチトレーナーコースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220135

１．授業のねらい・概要

スポーツマネジメントに関して，その最先端を走るアメリカ合衆国において，米国 4 大プロスポーツのひとつである MLB 傘下ミルウォーキー・ブリュワーズの春季トレーニングキャンプ（於：メリーベールベースボールパーク，アリゾナ州フェニックス市）を視察し，プロとは異なる地域密着型のアマチュアスポーツの現場例として，CSUF（カリフォルニア州立大学フラトン校）における強化指定部活動の運営を視察する（順序は現時点では未定)。また，柔道整復師やスポーツトレーナー，教職など指導者を目指す学生のために，上記 2 施設において，アメリカの科学的なスポーツ外傷・障害予防の取り組みに関して学び，実際に CSUF 所属学生アスリートに対するケアや指導を体験する。アメリカにおけるそれらの取り組みは世界をリードしており，その理論と実践は選手としても，またトレーナー等を目指す者としても非常に貴重な体験となる。

２．授業の進め方

後期期間中に計 3 回の事前授業を実施し，春休み（3 月上旬）にロサンゼルスへ渡航する。メリーベールベースボールパークならびに CSUF 施設にて研修（順序は現時点では未定)，スポーツ外傷・障害予防の取り組みについて学び，指導実践を体験する。帰国直後にレポートを提出。

３．授業計画

①実施までに少なくとも 3 回の事前授業として，海外渡航に関する注意喚起，視察箇所に関する事前知識，ESTA，旅行保険加入の手続き，英語等に関する講義。 ②研修期間は 5 泊 7 日とし，CSUF にて，スポーツ外傷・障害予防の取り組みを研修し，実践も行う。	③その他，メリーベールベースボールパークを視察。 ④帰国後にレポートを提出。

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

パスポートや ESTA，旅行保険，キャッシュカードなどの取得に関して，期限を設けているため，その期限までに各自しっかりと準備すること。また，渡航先の文化，気候，地理的情報，社会情勢等に関して調べて，質問等をまとめておくこと（2 時間程度）。日本国籍以外で米国入国に際し，ビザが必要な学生は十分な時間的余裕をもって自分で取得すること。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

帰国報告会にて研修レポートのフィードバックを行い，意見交換等実施する。

６．授業における学修の到達目標

日本と外国のスポーツマネジメントに関する違いや最先端のトレーニング理論に関する知識を得ることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

事前授業の受講態度，各施設視察，レクチャー，トレーニング体験などへの積極性（70%），帰国後レポート（30%）の提出にて総合的に評価する。事前授業への不参加・態度不良，準備の遅れによっては，国際交流員会の判断で，参加を諦めてもらうことがある。

８．テキスト･参考文献

事前授業や現地各地で配布される資料を用いる。

９．受講上の留意事項

① 日程等の詳細は別途校内ポスター，掲示板にて告知する。費用は渡航費，宿泊費，各種施設研修費であり，合計で50 万円前後を予定している（参加人数，為替の変動等で変更の可能性あり，また飲食費・遊興費等は除く）。
② 最小催行人数は 10 名であり，それに満たない場合は実施されない。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

海外語学研修		演習	国際交流委員会	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーチトレーナーコースの教養選択科目		科目ナンバリング	11210101

１．授業のねらい・概要

本学では，海外経験の無い学生向けに国際交流プログラムを設置していますが，より本格的に英語を勉強し，英会話を身につけたいという学生のために，ホームステイ(またはホテル宿泊)をしながら語学学校にて，より集中的に英会話を学ぶ研修として本研修を設置しています。インターネットの普及により日本に居ながら世界のあらゆる情報を瞬時に手にできる現代において，英語が話せることは自分の世界を大きく広げることにつながります。したがって，ぜひ学生のうちに自分の能力を伸ばし，社会にはばたく準備をしてもらいたいと思います。

この海外語学研修ではネイティブの教員の下，月曜日から木曜日まで 9 時-14 時 30 分，金曜日は 9 時-12 時まで授業を受け，日常生活ではホームステイにより必然的に英語を話す環境に身を置くことになります。2 週間のこのプログラムによって，コミュニケーションをとる楽しさを実感し，さらに文化の違いを体験し，生きた語学の楽しさを感じることになるでしょう。研修内容は研修先の国，都市，期間，語学学校，授業時間など変更の可能性あります。

２．授業の進め方

後期期間中に計 3 回（海外・渡航事情，英語など）事前授業を実施します。その後 2 月ないし 3 月に研修先の都市において 2 週間，ホームステイをしながら現地の語学学校で，英会話を学習し，帰国後に事後レポートを提出，並びに帰国報告会にて報告してもらいます。また，参加者の希望によっては，本授業の規定である 2 週間を超えて，1 か月等に変更することも可能です。

３．授業計画

10-11 月にかけ募集し，12-1 月に 3 回の事前授業として，英語および研修先都市における事情，地理・観光，産業・経済，歴史，文化，渡航手続き等に関して講義を行います。研修期間は 14 泊 16 日とし，研修先にて，ホームステイをしながら月曜日から木曜日まで 9 時-14 時 30 分，金曜日は 9 時-12 時まで授業を受けます。	帰国後，研修レポートを提出してもらい，帰国報告会にて報告してもらいます。研修先の国，都市，期間，語学学校，授業時間など変更の可能性があります。

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

パスポート，旅行保険，キャッシュカードなどの取得に関して，期限を設けているため，その期限までに各自しっかりと準備すること。また，渡航先の文化，気候，地理的情報，社会情勢等に関して調べ，質問等をまとめておくこと（2 時間程度）。日本国籍以外で研修先の国への入国に際し，ビザが必要な学生は各自で取得すること。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

帰国報告会にて、提出された研修レポートに対するフィードバックを行い、参加者による意見交換等実施する。研修レポートには個人の目標設定と達成状況を示すこと。

６．授業における学修の到達目標

日常生活において，外国人とコミュニケーションを図ることに躊躇せず，積極的に話しかけられるようになること，英会話スキルを向上させることを目標とします。

７．成績評価の方法･基準

事前授業での受講態度，研修先における語学授業での受講態度および修了証の取得・提示（70%），事後の研修レポートの提出（20%），帰国報告（10%）にて評価し，相当と評価された場合 2 単位が付与されます。

※　事前授業への不参加・態度不良，準備の遅れによっては，国際交流員会の判断で，参加を諦めてもらうことがあります。

８．テキスト･参考文献

研修先にて配布の資料を用います。

９．受講上の留意事項

参加申し込みは 10-11 月中に行います。費用は，空港ピックアップ費用，授業料，ホームステイ費用（3 食付），渡航費等がかかります。合計で，60 万円ほどを予定しています（研修内容，為替レートにより変動します)。また，本講座は 2 週間以上を実施期間として規定しています。2 週間以上であれば，学生の要望により 1 か月等の参加も可能です。しかしながら，参加期間に応じて経費も増額となるので注意してください。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

社会貢献実践	演習	教授　植松　盛夫	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220136 12220153 13220144

１．授業のねらい・概要

大学が認定する団体（公共機関，民間団体，NPO など）でのボランティア活動等に参加することによって，地域社会になじみ，関わり，それを深め，地域課題を発見するというプロセスを通じて，問題解決に向けた構想力と実践力を身につけることをねらいとする。

このような学びは，現実にある問題に直面した際に，既存の「マニュアル」にない方法で解決を導くトレーニングであり，今後の学生諸君のライフ･キャリアにおいて重要な力となる。これはまた，現在，本学が積極的に取り組んでいるアクティブ・ラーニング（能動的な学習）の１つでもある。

以上の趣旨から，本講義は，教員が一方的に学生に知識の伝達をする講義スタイルではなく，学生が自発的に取り組み，グループ学習や現地実習，ディスカッション，結果報告会（プレゼンテーション）などを行うことにより，単位が認定されることになる。

２．授業の進め方

実習では，学生が希望する実習先の活動期間および活動事項について，大学が認定するボランティア機関の認定を受けてから教学課に届ける。たとえば，下記のようなボランティア活動が考えられる。

① 県内の行政との協働
② 地域の商工会との協働
③ 地域イベント（祭り等）へのボランティア（県，市町村など）
④ 関連する学会やボランティア活動の発表会への参加
⑤ 県内大学と連携するボランティア活動
⑥ 地域ＮＰＯ・ボランティア団体への参加
⑦ その他の地域活動への参加

３．授業計画

１．ボランティア活動の基礎（講義）	９．ボランティア実習（学習支援）
２．ボランティアの歴史と諸概念（講義）	10．ボランティア実習（高崎祭）
３．ボランティアの実践事例（講義）	11．ボランティア実習（子ども食堂）
４．災害ボランティアについて（講義）	12．ボランティア実習（しんまち商工祭）
５．活動計画書の作成（グループ活動・演習）	13．ボランティア実習（白鳥見守り隊）
６．ボランティア活動と SDGs（講義）	14．活動報告書の作成（演習）
７．災害に強いまちづくり（講義）	15．活動結果報告会(プレゼンテーション)
８．ボランティア実習（新町七夕まつり）	（※ボランティア実習については例示である）

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・講義計画の講義テーマについて参考文献及び配布資料を講義までに読んでおくこと（30 分程度）。
・5 日間以上（30 時間以上）の外部実習を行い，実習後に「社会貢献実践実習報告書」を作成（1 件について 60 分程度），提出し，それに基づいて発表（発表のための資料作成に 120 分程度）する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「社会貢献実践実習報告書」はコメントをつけて返却する。
活動結果報告会では，講評を行う。

６．授業における学修の到達目標

・一市民として社会貢献実践に参加する意義や活動のなかでの自己の役割やありかたについて理解し，説明できるようになる。
・社会貢献実践の学外実習(5 日間以上)を行い，大学での学びを実習現場で活用できるようになる。
・実習結果と振り返りを実習報告書に報告・提出し，次回の社会貢献実践の学外実習に応用できるようになる。
・社会貢献実践の活動結果報告会で 1 年間の実習結果を発表し，その意義・役割・課題を理解し，活用できるようになる。

７．成績評価の方法･基準

活動計画書，実習報告書などの提出課題内容（60%）と活動報告会での発表（40%）により評価する。

８．テキスト･参考文献

参考文献：田村正勝『ボランティア論-共生の理論と実践』ミネルヴァ書房，2009 年
前林清和・中村浩也編著『SDGs 時代の社会貢献活動』昭和堂，2021 年

９．受講上の留意事項

学校行事として「学研災」の学生傷害保険が適用されるが，その条件として実習先や日程を大学側に届け出て，必ず承認を得ることが必要である。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

公務員試験対策ゼミＡ		講義	准教授　黒沢　賢一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 国際ビジネス学科の教養選択科目		科目ナンバリング	11220137 12220154 13220145 22200129

１．授業のねらい・概要

公務員試験の教養試験分野の問題は大きく一般知能と一般常識(知識)に分けられるが，その合否を決するのは一般知能の問題である。一般知能はさらに判断推理，空間把握，数的推理，資料解釈などに分けられ，この授業では判断推理と空間把握について，その問題の解き方を講義する。判断推理はクイズのような問題で，空間把握はパズルのような問題である。いずれも公務員試験独特のもので，学校では習ったことがなく，最初はとまどうかも知れないが，試験に出題される問題は決まっているので，その解法パターンをひとつでも多く身につけていくことが大切である。合格ラインをこえるために必要な解法パターンはこの授業ですべて身につけることができるようにする。また判断推理と空間把握の講義と並行して，授業では一般常識の主要科目である社会科学の試験に出るポイントも解説していく。さらに最近の人物重視の試験傾向をふまえて，面接攻略のためのポイントも講義する。

科目名は公務員試験対策ゼミとなっているが，これらは就職試験にも役立つ知識であり，最近の地方公務員試験では，市町村を中心にSPIやSCOAを実施するところがあり，それらの内容にも配慮した授業内容にするので，民間企業への就職を考えている学生にも役立つ内容になる。

２．授業の進め方

毎回の授業は，①一般知能テスト(判断推理，空間把握の過去問を教材にした頻出問題を出題)→②解説講義→③一般常識のポイント解説講義という流れで進んでいく。面接対策については講義形式をとる。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．真偽
〈判断推理〉	10．暗号
２．順序関係	〈空間把握〉
３．時刻	11．パズル問題(図形の分割・構成)
４．位置関係	12．立体図形
５．対応関係	13．サイコロと位相
６．試合の推理（リーグ戦）	〈面接対策〉
７．試合の推理（トーナメント戦）	14．面接攻略法
８．命題と論理・集合算	15．まとめ講義

※判断推理，空間把握のほかに社会科学分野の公務員試験に出題されるポイントも解説する。

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが，授業を受けた後は必ず一般知能テストで出題された問題について，授業中にとったノートとは別のノート(これを「課題ノート」と呼ぶ)に問題の解き方を詳細にまとめ直し，すべての問題について何も参照しないで解けるようになるまで，くり返し復習することが求められる。一般常識については，テキストの指定された範囲のポイントを暗記するまで反復する。そのための復習時間としては2時間以上必要になる。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

テスト，課題ノート返却時に評価のポイントなどを指摘する。

６．授業における学修の到達目標

(1)公務員試験に出題される一般知能の解法の基礎が理解できるようになる。

(2)公務員試験に出題される社会科学の知識を修得する。
(3)公務員試験の面接に向けた準備ができるようになる。

７．成績評価の方法･基準

授業内で実施する確認テスト(50%)と課題ノートの提出(50%)によって評価する。

８．テキスト･参考文献

(1)黒沢賢一著『Point Master 社会科学の論点』(三恵社)　毎回使用するので必ず持参すること。
(2)その他の受験教材については授業の中で紹介する。

９．受講上の留意事項

毎回，授業のはじめに一般知能のテストをするが，できなくても気にする必要はない。解説講義を聞いて，くり返し復習してできるようになればいい。解説講義はただ聞いているだけでなく，説明の内容をしっかりメモし，ポイントを聞き逃さないようにすることが大切である。

授業中の私語やスマートフォン，イヤホン等の使用は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

公務員試験合格を確実にしたいという方には，「社会科学の基礎Ａ」も受講することをすすめる。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

公務員試験対策ゼミＢ		講義	准教授　黒沢　賢一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目，スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 国際ビジネス学科の教養選択科目		科目ナンバリング	11220138 12220155 13220146 22200130

１．授業のねらい・概要

公務員試験の教養試験分野の問題は大きく一般知能と一般常識(知識)に分けられるが，その合否を決するのは一般知能の問題である。一般知能はさらに判断推理，空間把握，数的推理，資料解釈などに分けられ，この授業では数的推理と資料解釈について，その問題の解き方を講義する。数的推理は小，中学校で勉強した算数，数学の知識をもとに答えを求めていくもので，資料解釈は与えられた図表から情報を読み取る問題である。特に数的推理については苦手意識を持つ学生が多く見受けられるが，授業では問題を解くために必要になる算数，数学の知識を復習しながら問題を解き進めていくので得点源にすることは十分可能である。試験に出題される問題はほぼ決まっているので，それを解くための解法パターンをひとつでも多く身につけていくことが大切である。合格ラインをこえるために必要な解法パターンはこの授業ですべて身につけることができるようにする。また数的推理と資料解釈の講義と並行して，授業では一般常識の主要科目である社会科学の試験に出るポイントも解説し，さらに小論文，作文，適性検査の対策法についても講義する。

科目名は公務員試験対策ゼミとなっているが，これらは就職試験にも役立つ知識であり，最近の地方公務員試験では，市町村を中心にSPIやSCOAを実施するところもあり，それらの内容にも配慮した授業内容にするので，民間企業への就職を考えている学生にも役立つ内容になる。

２．授業の進め方

毎回の授業は，①一般知能テスト(数的推理，資料解釈の過去問を教材にした頻出問題を出題)→②解説講義→③一般常識のポイント解説講義という流れで進んでいく。小論文，作文，適性対策については講義形式をとる。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．n進法・数列
〈数的推理〉	10．図形の計量
２．整数の性質	〈資料解釈〉
３．方程式・不等式・速さ	11．実数・構成比・指数・増減率
４．比・割合・濃度	〈小論文・作文・適性〉
５．平均算・仕事算・ニュートン算	12．小論文書き方講義
６．給排水算・通過算	13．作文書き方講義
７．覆面算・魔法陣・集合算	14．適性対策講義
８．場合の数・確率	15．まとめ講義

※数的推理，資料解釈のほかに社会科学分野の公務員試験に出題されるポイントも解説する。

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが，授業を受けた後は必ず一般知能テストで出題された問題について，授業中にとったノートとは別のノート(これを「課題ノート」と呼ぶ)に問題の解き方を詳細にまとめ直し，すべての問題について何も参照しないで解けるようになるまで，くり返し復習することが求められる。一般常識については，テキストの指定された範囲のポイントを暗記するまで反復する。そのための復習時間としては2時間以上必要になる。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

テスト，課題ノート返却時に評価のポイントなどを指摘する。

６．授業における学修の到達目標

(1)公務員試験に出題される一般知能の解法の基礎が理解できるようになる。
(2)公務員試験に出題される社会科学の知識を修得する。
(3)公務員試験の小論文，作文の書き方と適性試験対策法が身につくようになる。

７．成績評価の方法･基準

授業内で実施する確認テスト(50%)と課題ノートの提出(50%)によって評価する。

８．テキスト･参考文献

(1)黒沢賢一著『Point Master 社会科学の論点』(三恵社)　毎回使用するので必ず持参すること。
(2)その他の受験教材については授業の中で紹介する。

９．受講上の留意事項

毎回，授業のはじめに一般知能のテストをするが，できなくても気にする必要はない。解説講義を聞いて，くり返し復習してできるようになればいい。解説講義はただ聞いているだけでなく，説明の内容をしっかりメモし，ポイントを聞き逃さないようにすることが大切である。

授業中の私語やスマートフォン，イヤホン等の使用は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

公務員試験合格を確実にしたいという方には，「社会科学の基礎Ｂ」も受講することをすすめる。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

生体力学の基礎		講義	准教授　中川　剣人	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目		科目ナンバリング	11301208 12220201 13312201

１．授業のねらい・概要

力学とは，物体の運動とその物体に働く力を考察する学問である。メジャーを使って遠投距離を測る，体重計に乗って体重を量る，ストップウォッチを使ってスプリント走のタイムを計る―これらはすべてヒトの身体やパフォーマンスに対して物理量的指標を用いて評価を行うものであり，我々は日常的に，力学の概念に基づいた身体活動の観察や分析を行なっている。本授業では，初等力学の初学者も対象に含めて，生体の運動やその力学的特性を論じるために必要となる数値表現および力学法則の基礎について学習を進める。また，「基礎運動学」で学習する内容とあわせて，発展的に「バイオメカニクス」を学習するための基礎を固める。

２．授業の進め方

主にスライド呈示による講義形式で授業を進める。各回の内容にそって生体活動や身体動作を題材とした力学計算例題とその解答例を紹介する。毎回の授業中に小テストを実施し，理解度を測る。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．自由落下と放物運動②　（斜方投射）
２．単位・記号・文字・表記法	10．角度・角速度・角加速度
３．座標・関数	11．エネルギー・仕事・パワー
４．スカラー・ベクトル	12．運動量・保存則
５．ベクトルの積	13．剛体の運動・回転運動
６．変位・速度・加速度・躍度	14．生体力学計算演習
７．力と運動の法則	15．総復習
８．自由落下と放物運動①　（重力加速度）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回までの授業ノートの見直しに１時間程度，また課題が出された場合はさらに１時間程度以上の準備学修を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題後，解答，要点等を解説し，フィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

基本的な数値表記法や力学概念を理解し，諸々の生体活動に対して妥当かつ正確な力学的説明を行えるようになる。

７．成績評価の方法･基準

受講態度と参加・活動状況（30%程度），期末試験（70%程度）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

「スポーツバイオメカニクス」（宮西智久・岡田英孝・藤井範久：化学同人）を参考図書とする。

９．受講上の留意事項

初等力学の初学者を想定した授業内容であるため，これまでの物理学や力学関連科目の学習状況は問わない。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，国立研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

トレーニングの科学的基礎	講義	教授　　小笠原　正志	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの選択必修科目	科目ナンバリング	11321202

１．授業のねらい・概要

トレーニングはアスリートの競技力向上を目的として発展し，これまで安全で効果的なプログラムが数多く開発されてきた。人生 100 年時代を迎え，アスリートのみならず広く一般にもトレーニングの必要性が叫ばれるようになり，ストレス解消，体力づくり，健康増進，介護予防，自己研鑽などその目的も多様化している。スポーツ指導者には，トレーニング目的，年齢，体力レベル，健康状態，発育発達段階など，クライアントの個別状況を考慮し，それに合致したトレーニングプログラムを構築する能力が求められている。そこで，本講義では，解剖学・運動生理学・バイオメカニクスといった基礎的な科目のなかから特にトレーニングに重要な項目をピックアップして解説し，適切なプログラムの構築とその指導を可能とする基本的な知識を獲得することを目的とする。

２．授業の進め方

主に，Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて動画を教材として利用し，イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。 また，各回に行う課題の実施により，講義の理解度を確認しながら展開していく。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．神経系・ホルモン
２．エネルギー供給系	10．筋肥大のメカニズム
３．運動強度の変化とエネルギー供給系	11．トレーニングの原理原則
４．運動時の心肺機能	12．トレーニングプログラムの立案
５．酸素摂取量の変化	13．トレーニングの目標設定
６．筋骨格系	14．ピリオダイゼーション
７．筋線維の特性（速筋線維と遅筋線維）	15．人生 100 年時代におけるトレーニングの意義
８．筋の収縮様式・骨格と筋のてこ作用	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキストによる予習(30 分程度)，前回のノートでの復習(30 分程度)。

次回取り扱う範囲のトレーニングおよび生理学的・解剖学的背景について理解および把握しておくこと。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回に行う課題は次回の授業で解説する。期末試験については後日解答を掲示板等に掲示する。

６．授業における学修の到達目標

様々なトレーニング方法の中から対象者に適したトレーニングプログラムを提供できる力を身につけていくことを目指す。その際に，対象者の体力レベルを適切に測定・評価していく力を併せて身につけていくことを目指す。

７．成績評価の方法･基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況（50%），および期末試験（50%）により総合的に評価する。ただし，講義回数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価の対象としない。

８．テキスト･参考文献

小笠原正志，「健康生活とスポーツ」，SIS，2024

参考図書：「ストレングス＆コンディショニング第 4 版」，ブックハウス HD

９．受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

NSCA の CSCS 資格取得希望者を優先とする。トレーニングの基礎知識を有することが望ましい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，企業における実務経験（地域住民の運動指導）を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツマネジメント論	講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312202 12220203 13220204 11531201 12531201 13531201

１．授業のねらい・概要

我が国におけるスポーツは，学校体育にみられる教育的価値の実現を前提として発展してきたが，社会の変化とともにスポーツの楽しさや喜び，健康増進等多様な価値が見出され，人々の生活の中に取り込まれるようになった。スポーツマネジメントとは，文化としてのスポーツと人々との直接的な関わり合いを成立させ，スポーツの持つ文化的な価値がより多くの人々に享受されるように促す営みである。よって，スポーツマネジメントは経済的利潤のみを目的とするものではなく，人々の豊かなスポーツ生活の実現を目指してスポーツを創造し供給することを目的としていることを理解する必要がある。本講義は，スポーツマネジメントの基本概念を理解し，学校体育や地域スポーツ等様々なスポーツ実践領域におけるマネジメントの考え方を学ぶ。

２．授業の進め方

授業ではレジュメ等を配布する。また，隔回授業中に課題等を提出し，授業内容の理解度を確認する。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツマネジメントの概念と実践領域 ３．スポーツマネジメントの構造 ４．運動者と運動者行動 ５．豊かな運動生活の捉え方 ６．体育・スポーツ事業と経営資源 ７．体育・スポーツ事業の運営：エリアサービス事業 ８．体育・スポーツ事業の運営：プログラムサービス事業	９．体育・スポーツ事業の運営：クラブサービス事業 10．スポーツマネジメントと学校体育 11．学校運動部活動のマネジメント 12．スポーツ組織のマネジメント 13．地域スポーツのマネジメント 14．スポーツ事業の評価，マネジメントサイクル 15．まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し，疑問点を明確にしておくこと。また，次回の講義内容に関する情報収集をしておくこと。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後，解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また，リアクションペーパーについては，記述内容のポイントや評価の基準に関する説明を次週の授業内で行う。

６．授業における学修の到達目標

スポーツマネジメントの目的や基本概念を理解し，スポーツの現代的な課題に対してスポーツマネジメントの視点から考察できるようになることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（50%），課題・ミニレポート（30%），授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

参考文献：柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏　編著「テキスト体育・スポーツ経営学」（大修館書店，2017）
柳沢和雄・清水紀宏・中西純司　編著「よくわかるスポーツマネジメント」（ミネルヴァ書房，2017）
畑攻・小野里真弓　編著「基本スポーツマネジメント」（大修館書店，2017）

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

地域スポーツ論		講義	教授　小笠原　正志	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11312203 11532205 12220204 12532205

１．授業のねらい・概要

人生 100 年時代の到来が予測されている。人生が長くなればなるほど，健康体をより長く維持していくことのできる持続可能な社会を構築していくことが求められている。とりわけスポーツは，心身の健康を維持する上で重要な役割を果たすことは明らかである。国民ひとりひとりが，生涯にわたって身近な地域でスポーツに親しむことを可能とする環境づくりは，人生 100 年時代における必須の社会課題といえる。

近年では，プロスポーツチームのホームタウン性による地域活性化や，総合型地域スポーツクラブによる地域住民のスポーツ活動の促進など，スポーツを通した地域づくりが注目されている。また，認知症予防や介護予防のために，高齢者向けの筋力トレーニングを地域で実践するなど，地域に根差したスポーツの普及の仕組みづくりが模索されている。

そこで，本講義では，地域スポーツの意義やその機能を理解するとともに，具体的な実践例を通して，生涯にわたるスポーツの実践と地域づくりについて学習する。

２．授業の進め方

地域スポーツ論の基本概念を理解するとともに，様々な実践例を用いて具体的なプログラムなどの提案を検討する。地域スポーツの具体的な内容について調査し，レポートにまとめる。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．健康運動の地域への普及（持続可能な普及方法）
２．スポーツ少年団からスポーツと地域を考える	10．スポーツツーリズムとまちづくり
３．地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり	11．総合型地域スポーツクラブの実際例
４．スポーツ基本法とスポーツ基本計画	12．プロスポーツと地域貢献
５．総合型スポーツクラブの必要性と社会的意義	13．プロスポーツと地域貢献（農業振興）
６．総合型スポーツクラブのマネジメント（育成・運営）	14．Ｊリーグと地域貢献　川崎フロンターレの実例
７．地域スポーツクラブの活動拠点の確保	15．日本ハムファイターズの球場再生事業
８．健康運動の地域への普及（人件費・事業費）	講義のまとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでにテキストや資料を活用して予習し，講義内容を復習しておくこと。これらの準備学修には，１時間程度が必要である。新聞やインターネット等を通して，地域における様々なスポーツ活動に関する情報を得ること。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に関しては次回の講義で数人に発表してもらい講評する。最終課題についてのそれぞれの発表時に講評する。

６．授業における学修の到達目標

地域における様々なスポーツについて学習し，関心を高めるとともに理解を深めていく。

自分の住む町の地域スポーツクラブ，スポーツイベントに参画，協力することができる。

７．成績評価の方法･基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況 (50%)，および期末レポート (50%) により総合的に評価する。ただし，講義回数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価の対象としない。

８．テキスト･参考文献

小笠原正志，「健康生活とスポーツ」，SIS，2024。その他講義資料は必要に応じて配布する。

参考図書：山口泰雄「地域を変えた総合型スポーツクラブ」　大修館書店（2006）

二杉茂ら「地域スポーツクラブ指導者ハンドブック」　晃洋書房（2009）

木田悟ら「スポーツで地域を拓く」東京大学出版会　（2013）

９．受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，企業における運動指導に関する実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ心理学		講義	教授　竹内　成生	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11321205 11532202 12220205 12532202 13220205 13532202

１．授業のねらい・概要

スポーツ心理学は主に運動の実践と指導について心理学的見地から研究する分野である。しかしながら，近年のスポーツ心理学は競技スポーツのみならず，生涯スポーツや観戦といった個人・社会とスポーツの関係までを研究対象としており，健康で充実した生涯を過ごすという視点も重要視している。本講義では動機付け，パーソナリティ，ストレス，コーチング，メンタルトレーニング，運動の制御と学習などをキーワードとしてスポーツ心理学を概観し，ピークパフォーマンスの発揮に重要な運動意欲，セルフコントロール等の心理スキルを自身のスポーツ活動に応用できる知識を身に付けることを目標とする。

２．授業の進め方

パワーポイント，スライド，板書等による講義形式であるが体験を用いた授業を進める。また視聴覚教材を適宜使用する。

３．授業計画

１．スポーツ心理学とは	９．スポーツとメンタルヘルス
２．運動の制御	10．スポーツとメンタルトレーニング
３．運動技能の学習１（学習機構）	11．スポーツへの参加・離脱
４．運動技能の学習２（情報処理）	12．スポーツと指導者
５．発達と運動	13．運動技能の指導
６．スポーツと動機付け	14．スポーツとメンタルヘルス
７．パーソナリティとはなにか	15．まとめ
８．スポーツとストレス	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため，各テーマについて予め考察しておくこと。加えて，各講義で学んだ概念や各トピックについて，自らの経験と照らし合わせて理解を深めることが重要である。なお，各講義における準備学習時間は 2 時間以上を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小課題や小レポートに関する詳細解説は次の講義内にておこなう。また，最終課題のフィードバックは出題意図・解答ならびに理解すべき点等について課題終了後に実施する。

６．授業における学修の到達目標

スポーツ心理学の概略を理解し，スポーツ場面における心理とその機能に関する知見の重要性を理解すること。また，心理的スキルを自身のスポーツ活動にも応用できる知識を身に付けること，ならびにスポーツを行う状況（健康の維持・増進活動としてのスポーツ，競技としてのスポーツ）や，スポーツに関与する立場（実践者，指導者，応援・観覧）による心理的差異についての理解を深めることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

各回の課題実施状況（25%），課題/小レポート評価（45%），最終課題（30%）を基準として総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

テキストは特に指定しないが，参考図書を初回授業内に紹介する。各講義でプリントを配布することがある。

９．受講上の留意事項

スポーツ心理学はスポーツをする人にとって身近な分野であり，その心理作用を具体的にイメージし易いことから，自身の経験に当てはめて考え，理解を深めるようにすること。また，講義内で各テーマに関係した簡単な実験デモンストレーションや心理検査などを進んで体験すること。これら体験をもとに理解を深めることを重要な評価のひとつとするので，積極的に学習を進めてほしい。履修希望者が定員を超えた場合には抽選となることがあるため，希望者は初回講義に必ず参加すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。障害を対象とした研究機関での実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

運動生理学		講義	教授　大森　肇	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目 教職科目		科目ナンバリング	11531202 12531202 13531107 11321204 12220207 13311102

１．授業のねらい・概要

運動生理学とは，運動時の身体応答とその機序を追究するとともに，そうした環境の変化に身体がどのように適応していくかを求めていく学問である。またその応用範囲は広く，スポーツパフォーマンスの向上，健康の維持・増進，疾病の予防・治療，幅広い年齢層への身体教育などに及んでいる。本授業では，特に運動に関係の深い身体機能に焦点を当て，基本となる構造・機能を学ぶとともに，上記の応用事例について考えていくことをねらいとしている。

２．授業の進め方

パワーポイントによるプレゼンテーション，配布資料，板書等により授業を展開する。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．運動時のホルモン分泌
２．運動生理学とは何か	10．運動と呼吸
３．骨格筋の構造と機能	11．運動と循環
４．神経系による運動の調節	12．運動時の疲労と生理的合目的性
５．筋力と筋パワー	13．運動と酸化ストレス
６．筋の肥大と萎縮	14．運動と抗疲労（休養・栄養・トレーニング）
７．栄養素の消化・吸収と代謝	15．まとめ
８．運動時の代謝	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各テーマについて予習し，理解のための基盤を作っておくこと（30 分）。復習時に講義内容を改めて整理し，理解が不十分な部分は自ら調べを深め，疑問点を次回のショートレポートで質問できるようにまとめておくこと（30 分）。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業冒頭において，前回のショートレポートで出された質問に答えることでフィードバックする。また，定期試験後に全体講評を掲示または一斉メールにてフィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

身体の基本的なメカニズムと運動時の変化に関する知識を身につけることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（70%）および受講態度（30%）を総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

資料を配布する。

９．受講上の留意事項

私語，水分補給以外の飲食，授業内容に関する検索以外のスマホ・PC 等の使用，居眠りの 4 項目を禁止する。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

バイオメカニクス		講義	准教授　中川　剣人	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目 教職科目		科目ナンバリング	11301211 12220208 13312202 11532208 12532208 13532208

１．授業のねらい・概要

バイオメカニクスは，生体システムの構造と機能について力学や機構学の手法を用いて分析し，解釈を与えようとする学問領域であり，身体運動科学における主要な研究分野の１つである。具体的には，立位保持や歩行動作，またスポーツやリハビリテーションにおける諸々の生体活動を主要な研究対象とする。本授業では，身体動作におけるキネマティクスとキネティクスの基礎理論の学習を中心とし，特に運動中の生体や物体を力学的に説明・分析できることを目指す。履修にあたっては，先に「生体力学の基礎」を履修しておくことが望ましい。

２．授業の進め方

主にスライド呈示による講義形式で授業を進める。各回の内容にそって生体活動や身体動作を題材とした力学計算例題とその解答例を紹介し，加えて身体部分慣性特性などの物理量を求める計算演習も実施する。毎回の授業中に小テストを実施し，理解度を測る。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．キネティクス④（保存則）
２．バイオメカニクスの対象・生体力学基礎①	10．キネティクス⑤（身体にかかる力）
３．生体力学基礎②	11．キネティクス⑥（てこの原理）
４．キネマティクス①（位置と自由度／並進と回転）	12．キネティクス⑦（逆動力学）
５．キネマティクス①（3 次元計測とその解析）	13．キネティクス⑧（現実場面でのキネティクス）
６．キネティクス①（身体部分慣性特性：重心）	14．バイオメカニクス研究トピック
７．キネティクス②（身体部分慣性特性：慣性モーメント）	15．総復習
８．キネティクス③（力のモーメント・運動量・力積）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回までの授業ノートの見直しに１時間程度，また課題が出された場合はさらに１時間程度以上の準備学修を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題後，解答，要点等を解説し，フィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

バイオメカニクスの基本的な概念を理解し，生体活動や身体動作に対して力学的観点から説明できるようになる。

７．成績評価の方法･基準

受講態度と参加・活動状況（30%程度），期末試験（70%程度）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

特になし。

９．受講上の留意事項

これまでの物理学や力学関連科目の学習状況は問わないが，先に「生体力学の基礎」を履修しておくことが望ましい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，国立研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

知覚運動論		講義	准教授　中川　剣人	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目		科目ナンバリング	11301209 12220209 13312204

１．授業のねらい・概要

知覚は行為の手段であり，行為は知覚の手段である。知覚と行為（運動）は機能的に繋がっており，日常生活においてもスポーツ場面においても，これらを高度に連携させることが，効率的で合目的的な運動行動を遂行するために必要となる。本授業では，まず主に視覚系の感覚情報処理についての基礎理論を学び，さらに知覚運動に関わる学問領域の横断的な解説を交えながら，知覚と運動の機能的連携に対する理解を深めていく。また，実際の学術論文で示された結果を概覧しながら，過去から現在までの研究トピックに触れ，将来に向けたこの分野の展望を考察する。

２．授業の進め方

主にスライド呈示による講義形式で授業を進める。話題にした現象や方法論についての体験的学習（実験）を盛り込みつつ，関連する学術論文を紹介しながら解説を行う。また，毎回の授業中に小テストを実施し，理解度を測る。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．高速移動物体の捕捉運動（野球を例に）
２．眼球光学系と神経生理	10．アスリートの立体視／動作遂行のための視覚情報
３．光の強度と色覚	11．注意と知覚運動
４．視覚系の時空間特性／錯視	12．【トピック】トップサッカー選手の知覚運動システム
５．運動視／知覚行為カップリング	13．【トピック】トップ体操選手の知覚運動システム
６．知覚運動行動に係る用語の解説	14．知覚運動に関わる脳領域徴
７．ミラーニューロン・運動伝染	15．総復習
８．眼球運動／アスリートの視線	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回までの授業ノートの見直しに 30 分程度，また課題が出された場合はさらに 30 分程度以上の準備学修を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験期間中の同時限内において，解答のポイントや出題の意図について全体説明を行い，個別質問にも応じる。

６．授業における学修の到達目標

感覚系と運動系の情報処理過程について基本的な概念を理解し，アスリートの知覚運動システム，最新の研究の動向や研究手法について理解が深まる。

７．成績評価の方法･基準

受講態度と参加・活動状況（30%程度），期末試験（70%程度）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

特になし。

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，国立研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

運動制御論		講義	准教授　中川　剣人	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11301207 11532201 12220211 12532201

１．授業のねらい・概要

運動は，脳からの指令により脊髄運動ニューロンが活性化されることで，筋を収縮し，関節を中心に骨を動かし生じる随意運動と，主に筋や皮膚からの末梢入力が，脊髄運動ニューロンを賦活させて生じる反射からなっており，これらのバランスを巧みに調節することで，目的にかなった動作を実現させている。その基本的な仕組みの理解はもちろん，アスリートの中枢神経系の特徴や運動学習に関する最近の知見に触れることで，教科書的な知見をスポーツや臨床場面と対応させて理解することを目指す。

２．授業の進め方

パワーポイントによるプレゼンテーション形式，板書および，ビデオ映像等により授業を展開する。また，毎回の授業中に小テストを実施し，理解度を測る。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．アスリートの一次運動野
２．筋の種類，筋の構造と収縮メカニズム	10．高次運動野の機能
３．筋の力発揮の特徴，筋線維タイプ，運動単位	11．小脳の構造と機能
４．脊髄と反射回路①（伸張反射）	12．小脳と運動学習
５．脊髄と反射回路②（反射の調節）	13．大脳基底核の構造・機能
６．反射運動その他	14．眼球運動
７．大脳の構造と機能	15．総復習
８．一次運動野の構造・機能	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため，各テーマについて予め疑問に思うこと，知りたいことを考察しておくこと（30分）。また，自筆ノートを見ながら講義内容に関して理解しているか否か確認し，疑問に思ったこと等を次回の講義で質問できるようにまとめ，覚えなければならない用語等は暗記すること（30分）。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題後，解答，要点等を解説し，フィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

運動がどのように制御されているのか，その基礎知識と応用性を身につけることを目標とします。

７．成績評価の方法･基準

受講態度と参加・活動状況（30%程度），期末試験（70%程度）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

特になし。

９．受講上の留意事項

自分が運動をどのようにコントロールしているか，その仕組を理解しましょう。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業(講義)は，国立研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ産業論		講義	講師　菅谷　美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11312206 12220213 13220206 11532203 12532203 13532203

１．授業のねらい・概要

私たちにとってスポーツは非常に身近なものとなり，スポーツを楽しむ場所や機会は飛躍的に増大した。スポーツ参加の機会は増えるとともに，私たちはスポーツにおいても消費行動を展開するようになった。この授業では，スポーツ観戦やスポーツ関連商品の消費行動から，プロスポーツのクラブビジネス，プロリーグの構造などスポーツ産業全般を理解するとともに，スポーツ産業の諸領域の今日的な課題を議論する。将来，スポーツ関連の仕事に携わりたいと考えている学生にとって，スポーツの価値を活かし，スポーツ産業界で仕事を創り出すとはどういうことなのか，具体的なイメージを抱けるようになることを目指す。

２．授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また，隔回授業最後に課題を提出し，授業内容の理解度を確認する。

３．授業計画

１．オリエンテーション（授業の進め方，成績と評価について等） ２．スポーツ産業とは（スポーツ産業の領域，スポーツ市場の現状） ３．スポーツ用品産業 ４．スポーツ施設産業 ５．スポーツサービス情報産業（スポーツとメディア） ６．フィットネスクラブのマネジメント（フィットネス産業の現状，サービス特性） ７．クラブ事業のマネジメント（チーム，クラブ，球団，ステークホルダー） ８．オリンピックとスポーツ産業界（オリンピック開催を巡る諸問題）	９．日本のプロスポーツ①（リーグの構造） 10．日本のプロスポーツ②（プロ野球のマネジメント） 11．スポーツスポンサーシップ 12．権利ビジネスとしてのスポーツ（スポーツ選手の契約，企業との権利関係） 13．スポーツファンを知る（みるスポーツとしてのビジネス展開） 14．海外のプロスポーツ（欧州の事例） 15．大学スポーツの産業化を考える／まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し，疑問点を明確にしておくこと。また，次回の講義内容に関する時事問題（新聞記事などを事前に配布することもある）を自ら調べること。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業の課題については，次の授業冒頭で解答のポイントに関する説明を行うとともに，優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。中間レポートについては，採点後に返却を行う。

６．授業における学修の到達目標

スポーツ産業の成り立ちや全体像を理解し，個別具体的なスポーツ産業領域の現状を理解する。

また，スポーツ産業の諸領域における今日的課題について理解を深め，論理的に自分の意見を記述できるようにする。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（50%），中間レポート及授業での課題（30%），授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

教科書は特に指定しない。適宜，資料・プリントを配布する。

参考文献：原田宗彦　編著「スポーツ産業論第７版」（杏林書院，2021）

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

リハビリテーション論	講義	教授　大森　肇	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	11322113 11531105 12531105 13220147 13531105 12312101

１．授業のねらい・概要

本授業の内容は，「アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画」，「コンディショニングの手法」，「特殊環境下での対応」の 3 項目が中心となる。「アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画」では，一般人を対象とした社会復帰（リハビリ）だけではなく，スポーツ選手（アスリート）を対象としたリハビリ，すなわち達成目標として競技復帰までをマネージメントしていく方法論を学ぶ。「コンディショニングの手法」では，コンディショニングとは何かということを学ぶと同時に，ウオーミングアップ，クーリングダウンや患部以外の活用を含めた全身トレーニングについて学ぶ。「特殊環境下での対応」では，スポーツ活動の中でも身体負担度の大きな運動に対応する研究事例に触れることで，スポーツ選手のコンディション管理に関する知見を学ぶ。

２．授業の進め方

パワーポイントによるプレゼンテーション，配布資料，板書等により授業を展開する。

３．授業計画

1．ガイダンス 2．スポーツ外傷とスポーツ障害 3．RICE 処理，アイシングの方法と効果 4．メディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーション 5．アスレティックリハビリテーション実施上の留意点 6．アスレティックリハビリテーションの段階的プログラム 7．コンディショニングとは何か 8．ウオーミングアップとクーリングダウン 9．ストレッチングの目的・種類・方法	10．患部以外の活用と全身トレーニング（筋力，持久力，スピード，協調性） 11．特殊環境下での対応（長時間走行による疲労とアミノ酸摂取による疲労軽減） 12．特殊環境下での対応（高強度レジスタンス運動による筋痛・筋損傷に及ぼすアミノ酸摂取の効果） 13．特殊環境下での対応（高強度レジスタンス運動による筋痛・筋損傷に及ぼす事前運動の効果） 14．特殊環境下での対応（動物の筋損傷モデル実験における熱ショックタンパク質の役割） 15．まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各テーマについて予習し，理解のための基盤を作っておくこと（30 分）。復習時に講義内容を改めて整理し，理解が不十分な部分は自ら調べを深め，疑問点を次回のショートレポートで質問できるようにまとめておくこと（30 分）。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業冒頭において，前回のショートレポートで出された質問に答えることでフィードバックする。また，定期試験後に全体講評を掲示または一斉メールにてフィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

運動で起こり得るダメージを理解し，その軽減法と予防法を学び，指導に活かせる知識を修得することを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

期末試験（70%）および受講態度（30%）を総合的に評価する。

８．テキスト･参考文献

資料を配布する。

９．受講上の留意事項

私語，水分補給以外の飲食，授業内容に関する検索以外のスマホ・PC 等の使用，居眠りの 4 項目を禁止する。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

運動処方論		講義	教授　　小笠原　正志	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11301205 12220215

１．授業のねらい・概要

人生百年時代を迎え，健康で長生きすることは本人の幸福だけではなく，社会全体の幸せにつながる。本講は，健康を脅かす大きな原因でもある生活習慣病を予防・改善する健康づくりのため，安全で効果的な運動を「運動処方」として提供するための基本的な仕組みを理解することを目的とする。運動は習慣化しなければ意味がない。運動による身体反応に関わる運動生理学・解剖学などの基礎科目の内容をふまえた上で，クライアントにとって運動が生活習慣のひとつとなるための教育的支援・環境的支援について学ぶ。

２．授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて動画を教材として利用し，イラストを中心にわかりやすく編集された資料を補足的に用いる。また，各回に行う課題の実施により，講義の理解度を確認しながら展開していく。

３．授業計画

１．ガイダンス・有酸素運動　無酸素運動とは ２．運動強度の理解①　エネルギー供給系 ３．運動強度の理解②　呼吸循環系 ４．運動強度の理解③　運動強度の表し方 ５．運動と消費エネルギー・運動所要量 ６．生活習慣と生活習慣病の関連 ７．内臓脂肪型肥満と運動 ８．高血圧症と運動	９．糖尿病と運動 10．高尿酸血症・脂質異常症と運動 11．筋力トレーニング 12．高齢者と介護予防運動 13．行動変容を促す技法 14．リスクマネジメント 15．まとめ

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義を受講するまでに，次週講義内容に関する情報を入手して予習し，講義内容を復習しておく。なお，これらの準備学習には１時間程度が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際，解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

６．授業における学修の到達目標

身体の特徴や機能ならびに運動処方に関する基礎知識を獲得し，自身の日常生活およびフィールドで実践・指導することができる。

７．成績評価の方法･基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況（50%），および期末レポート（50%）により総合的に評価する。ただし，講義回数の３分の１以上欠席した者は評価の対象としない。

８．テキスト･参考文献

小笠原正志：「健康生活とスポーツ」，SIS，2024

９．受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。トレーニングの科学的基礎等のトレーニング系講義を受講し，知識を習得していることが望ましい。

１０．「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，企業における実務経験（地域住民の運動指導）を活かして指導する。

１１. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄記載の通り。

選択英語Ａ（２）	講義	講師　松本　秀樹	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110201 12210201 13210201

１．授業のねらい・概要

英語の４技能を使ったコミュニケーションに習熟することによって，様々な背景をもつ人々とも自然と交流し意思疎通がはかれるようになることをねらいとする。日頃の生活や将来の仕事の場面においても英語でコミュニケーションを取ろうとする態度が身に付くように具体的な場面を設定して生きた英語に慣れ親しみながら学べるようにする。また，英語を学ぶことによって異文化を理解し自身の発想を広げて，多角的に物事を見て考える姿勢を身に付ける。

２．授業の進め方

２コマで１ユニット進むこととする。ユニットの前半は，テーマに関する内容についてリスニングをしてウォーミングアップを行い，関連する語彙や表現を学ぶ。テーマについての会話を動画により学習し，リスニングやロールプレイ等を通してコミュニケーションに習熟しつつ文法事項を学習して英語運用能力を高める。ユニットの後半は，テーマに関してのリーディングやライティングを行い英語の実践的総合力を向上させるとともに，文化・習慣についての理解を深める機会を設定する。

３．授業計画

1. Course orientation and overview
2. Unit 1　Greet people and introduce yourself
3. Unit 1　Exchange personal information with your classmates
4. Unit 2　Talk about places in the city
5. Unit 2　Plan a tour around town
6. Unit 3　Ask for and give directions
7. Unit 3　Examine how GPS has affected travel
8. Unit 4　Identify different kinds of restaurants
9. Unit 4　Evaluate a restaurant's food and service
10. Unit 5　Identify different grocery items
11. Unit 5　Make a grocery shopping list items
12. Unit 6　Define different types of clothing
13. Unit 6　Compare outfits and styles
14. Review I
15. Mid-Term report
16. Unit 7　Describe personality traits
17. Unit 7　Create a personality profile
18. Unit 8　Identify different movie genres
19. Unit 8　Rate your favorite movies
20. Unit 9　Talk about daily routines
21. Unit 9　Create a weekly schedule
22. Unit 10　Talk about your favorite sports
23. Unit 10　Summarize exercise goals and achievements
24. Unit 11　Identify illness symptoms
25. Unit 11　Instruct others on how to stay healthy
26. Unit 12　Define different weather patterns
27. Unit 12　Write about a local weather report
28. Review II
29. Course Review
30. Course Summary

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前には該当箇所の予習をして，授業終了後は学習した内容を復習して習熟に努めること。これらの学修に 1 時間を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート・小テストについては採点の上返却する。また，提出物等は講評し改善のためのアドバイスを行う。

６．授業における学修の到達目標

１．英語の基本的な技能に習熟することによって，英語による意思の疎通を図ることができる。

２．異文化について学び理解することによって，日常生活での自身の発想を広げ多角的なものの見方を身に付けることができる。

７．成績評価の方法･基準

試験とレポート（50%），提出物・小テスト・授業の参加度・積極性（50%）を総合して評価する。

８．テキスト･参考文献

角山照彦/Live ABC editors 著,『Live Horizons Book 1』, 成美堂（2026）

９．受講上の留意事項

英語をわかりやすく基礎から段階を踏んで授業を行うので，英語に自信がなくても安心して受講してほしい。授業には辞書または電子辞書を持参すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語Ａ（３）	講義	講師　松本　秀樹	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110201 12210201 13210201

１．授業のねらい・概要

英語の４技能を使ったコミュニケーションに習熟することによって，様々な背景をもつ人々とも自然と交流し意思疎通がはかれるようになることをねらいとする。教材に登場する同世代の人物から英語圏各地の文化，風土とともに彼ら自身の現在の姿や将来のビジョンを知り，学生自身の将来像を考える機会とする。日頃の生活や将来の仕事の場面においても英語でコミュニケーションを取ろうとする態度が身に付くように具体的な場面を設定して生きた英語に慣れ親しみながら学べるようにする。また，異文化を理解し自身の発想を広げ，多角的に物事を見て考える姿勢を身に付ける。

２．授業の進め方

２コマで１ユニット進むこととする。ユニットの前半は，トピックに関する内容についてウォーミングアップを行い，関連する語彙や表現を学ぶ。その後トピックについて動画により学習し，内容の要点を捉えた上でコミュニケーション活動に習熟し英語運用能力を高めるとともに，異文化理解を通して世界の中の自分を意識する機会とする。ユニットの後半は，英語圏に住む同世代のインタビューを視聴してリスニングやリーディングを行い英語の実践的総合力を向上させるとともに，文化・習慣についての理解を深め学生自身の将来像を考える機会を設定する。

３．授業計画

1. Course orientation and overview	16. Unit 8　New Zealand　Introduction
2. Unit 1　Los Angeles　Introduction	17. Unit 8　Into the Peacefulness
3. Unit 1　Living the Dream	18. Unit 9　New Zealand　Documentary
4. Unit 2　Los Angeles　Documentary	19. Unit 9　An Interesting Walk with Sophie
5. Unit 2　Meeting Different Kinds of People	20. Unit 10　England　Introduction
6. Unit 3　Scotland　Introduction	21. Unit 10　Having a Big Influence on the World
7. Unit 3　A country Filled with Imagination and New Ideas	22. Unit 11　England　Documentary
8. Unit 4　Scotland　Documentary	23. Unit 11　Living Your Life to the Maximum
9. Unit 4　Being a Typical Scot, and Proud of It	24. Unit 12　The Bahamas　Introduction
10. Unit 5　Canada　Introduction	25. Unit 12　Developed Tourism Industry
11. Unit 5　Living in Harmony with Nature	26. Unit 13　The Bahamas　Documentary
12. Unit 6　Canada　Documentary	27. Unit 13　Making Steps to Achieve Your Goals
13. Unit 6　A Young Adventurer in Ottawa	28. Unit 14　Review Section II
14. Unit 7　Review Section I	29. Course Review
15. Mid-Term report	30. Course Summary

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前には該当箇所の予習をして，授業終了後は学習した内容を復習して習熟に努めること。これらの学修に 1 時間を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート・小テストについては採点の上返却する。また，提出物等は講評し改善のためのアドバイスを行う。

６．授業における学修の到達目標

１．英語の基本的な技能に習熟することによって，英語による意思の疎通を図ることができる。

２．異文化について学び理解することによって，日常生活での自身の発想を広げ多角的なものの見方を身に付けることができる。

７．成績評価の方法･基準

試験とレポート（50%），提出物・小テスト・授業の参加度・積極性（50%）を総合して評価する。

８．テキスト･参考文献

森田彰，Bill Benfield 他 著,『World Wide English Volume 1　世界で輝く若者たちの英語１』成美堂（2016）

９．受講上の留意事項

英語をわかりやすく基礎から段階を踏んで授業を行うので，英語に自信がなくても安心して受講してほしい。授業には辞書または電子辞書を持参すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語Ａ(3)		講義	講師　村元 エリカ マリア	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11110201 12210201 13210201

１．授業のねらい・概要

本コースでは，この分野の新たな知識を身につけ，興味に応じた言語的・文化的なトピックスを探求し，現代社会において有用となるグローバルな思考力を養います。

２．授業の進め方

選択英語 A は，アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生が実践的な問題解決能力を養うことを目指します。具体的には、PBL（課題解決型学習）、調査学習、グループワーク、プレゼンテーション、リフレクションを行い、学生はグループで協力して興味のあるテーマに関連する問題を調査し、アイデアを出し合い、解決策を見つけます。英語のスキルについて心配せず、挑戦し、間違いから学び、グループで成長することが大切です。

３．授業計画

第１回　Welcome: Introduction to the Course and Participants / Course Orientation
第２回　Syllabus Overview / General Tasks
第３回　Topic 8: Embracing Diversity and Knowledge Sharing: Learning Through Global Topics (pp. 1 - 4)
第４回　What You Will Learn & Make Groups (pp. 5-10)
第５回　Parts of Research & Part 1 - Research Topic (pp. 11-15)
第６回　Sources and References - Research Skills (pp. 16-18)
第７回　Part 2 - Reason for Interest (pp. 19-21)
第８回　Part 3 - Views from Japan (pp. 22-25)
第９回　Part 4 - Country Description and Language (pp. 26-32)
第１０回　Part 5 - Communities in Japan & Interview (pp. 33-38)
第１１回　Part 6 - Views from your group’s selected country (pp. 39-43)
第１２回　Part 7 - Partnership and Actions (pp. 44-48)
第１３回　Part 8 - Comparison (pp. 49-53)
第１４回　Part 9 - Japanese Professional (pp. 54-56)
第１５回　Citation and Academic Integrity (pp. 57-59)
第１６回　Preparation for Group Presentation - Selecting Slide Software (pp. 60-62)
第１７回　Preparation for Group Presentation - Dividing Tasks and Designing the Presentation (pp. 63-70)
第１８回　Presentation Requirements (p. 71)
第１９回　Presentation Requirements - Greetings and Quiz (pp. 72-73)
第２０回　Presentation Requirements - Speaking Notes (pp. 74-75)
第２１回　Presentation Requirements - Preparation for Q&A (pp. 76-79)
第２２回　Practice and Presentation (pp. 80-82)
第２３回　Presentation Evaluation Process (pp. 83-85)
第２４回　Presentation – Day 1
第２５回　Presentation – Day 2
第２６回　Presentation – Day 3
第２７回　Presentation – Day 4
第２８回　Presentation – Day 5
第２９回　Can-Do Questions (p. 86)
第３０回　Research Report Writing / Pick Up Loose Ends / Review Course

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前期週２回型。遅刻・欠席しない様に，積極的に参加してください。授業で配布された詳細日程表に基づいて，次回の講義で学習する範囲を予習してくること。自主的に課題を進めてください。なお，これらの準備学修には，プレゼンテーション用スライドおよびスピーキングノートの準備，ならびに他の受講生の発表に関するリフレクションペーパーの作成を含め，１時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教科書課題または授業外課題はすべて授業中に確認する。プレゼンテーションの講評を行う。筆記試験は採点し，返却する。

６．授業における学修の到達目標

- 一般教養および専門科目に必要となる英語の４技能（リスニング，スピーキング，リーディング，ライティング）を効果的に使える能力を示すことができる。
- 世界中の多様な言語的・文化的文脈を探究することができる。
- 英語の実践を通して，異なる文化や社会と自身を結びつけ，多様性について考察することができる。
- 英語で，自分の考えを口頭および文章で表現することができる。

７．成績評価の方法･基準

このコースに合格するためには，60%の合格点を取得する必要があります。評価は以下の通りです。

(20%)　リフレクションペーパー（コメント用紙）

(20%)　課題(教科書課題および/または授業外課題)

(40%)　プレゼンテーション

(20%)　自己評価・レポート

８．テキスト･参考文献

教科書：　　指定しない。

参考資料：　　授業内で配布する資料を使用する。

９．受講上の留意事項

授業には，配布資料／ハンドアウト，パソコンまたはタブレット，英和・和英辞書（電子辞書を含む）を持参すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語Ａ(4)		講義	非常勤講師　佐野　敏之	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11110201 12210201 13210201

１．授業のねらい・概要

英語を聞き，話し，読み，書く総合的能力の向上を図り，英語への苦手意識を無くし，相手に臆せず円滑なコミュニケーションが取れるよう英語に親しみ慣れることをねらいとします。様々な場面での会話や，日本とは異なる視点から書かれた文書講読を通じて，異文化多様性に触れる機会を得ることで視野を広げることにもつながります。

２．授業の進め方

４コマで１ユニットを構成します。ユニットの内容は，１．語彙と会話リスニング，２．様々な表現によるスピーキング，３．文法と練習問題，４．読解と作文です。まず基本的表現を習得した上で，自分自身に置き換えた会話を学生同士のロールプレイも交えて体得します。次に，様々な状況を想定し，臨機応変に対応できる実践的なコミュニケーションスキルを養います。読解は，速読の訓練と文法を介した熟読の両面から，文章の内容・意図を迅速かつ正確に把握する力をつけます。

３．授業計画

１．Course Introduction and Overview	16．Unit 4:比較級・最上級
２．Unit 1:Meeting People / School Clubs	17．Unit 4:Teen Fashion
３．Unit 1:Greeting People / Making Introductions	18．Unit 5:A Helping Hand at Home
４．Unit 1:現在形 / 肯定文・否定文・疑問文	19．Unit 5:Complaining and Asking
５．Unit 1:A Strange College Club	20．Unit 5:人称代名詞・所有格・相関接続詞
６．Unit 2:Time to Eat / Enjoy Free Food	21．Unit 5:Make Your Home Green
７．Unit 2:Asking and Talking about a Meal	22．Unit 6:Going Places
８．Unit 2:過去形 / 肯定文・否定文・疑問文	23．Unit 6:Asking for and Giving Directions
９．Unit 2:Eat More and Lose Weight	24．Unit 6:助動詞
10．Unit 3:Living with Technology	25．Unit 6:Getting Around
11．Unit 3:Making and Responding to Invitations	26．Unit 7:Not Feeling So Good
12．Unit 3:現在進行形	27．Unit 7:A Patient Might Say
13．Unit 3:It's a YouTube World	28．Unit 7:連結動詞・使役動詞
14．Unit 4:Shoppong for Clothes	29．Unit 7:Natural Medicine for Your Cold
15．Unit 4:Receiving Customers / Customer Might Ask	30．Class Survey and Review of the Course

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前にテキストのレッスン該当箇所を自習用オンライン音源で聴くなどして，テキストの空欄を埋め，質問事項にも解答しておくこと（必要時間 30 分程度)。授業後はオンライン音源を使用するなどして，学習箇所を一通り復習すること（必要時間 20 分程度)。“毎日”英語に接することが確実な習得につながります。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後，授業内ないしはオンラインにて，解答，解説，講評をフィードバックします。

６．授業における学修の到達目標

基本的な会話表現を身につけることで，相手に臆することなく英語で日常生活上最低限必要なコミュニケーションが取れるようになります。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組み姿勢・小テスト・課題（以上計 50%），期末試験（50%）に基づいて評価します。

８．テキスト･参考文献

テキスト：角山照彦他著『４技能を高める英語演習 Book1 New Connection Book 1』（成美堂 2022）

９．受講上の留意事項

受講者の習熟度に応じた分かりやすい説明，段階を踏んだ指導に努めますので，特に，英語に苦手意識を持っている学生，あるいはもう一度基本から学び直したい学生に参加してほしい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は，金融機関，サービス業界における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語Ｂ（２）	講義	講師　松本　秀樹	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110202 12210202 13210202

１．授業のねらい・概要

選択英語Ａ(2)を継続・発展させた内容とする。

英語の４技能を使ったコミュニケーションに習熟することによって，様々な背景をもつ人々とも自然と交流し意思疎通がはかれるようになることをねらいとする。情報について多角的に考えた上で，論理的に自分の意見を述べる方法が身に付くように具体的な場面を設定して学べるようにする。また，英語を学ぶことによって異文化を理解し自身の発想を広げて，多角的に物事を見て考える姿勢を身に付ける。

２．授業の進め方

２コマで１ユニット進むこととする。ユニットの前半は，テーマに関する内容についてリスニングをしてウォーミングアップを行い，関連する語彙や表現を学ぶ。テーマについての会話を動画により学習し，リスニングやロールプレイ等を通してコミュニケーションに習熟しつつ文法事項を学習して英語運用能力を高める。ユニットの後半は，テーマに関してのリーディングやライティングを行い英語の実践的総合力を向上させるとともに，文化・習慣についての理解を深める機会を設定する。

３．授業計画

1. Course orientation and overview
2. Unit 1　Define smartphone features
3. Unit 1　Compare different smartphone models
4. Unit 2　Identify famous dishes from other countries
5. Unit 2　Recommend and describe dishes
6. Unit 3　Identify various musical instruments
7. Unit 3　Write an album review
8. Unit 4　Describe your favorite way to travel
9. Unit 4　Write a travel itinerary
10. Unit 5　Categorize different sections in a store
11. Unit 5　Describe product features
12. Unit 6　Define different landforms
13. Unit 6　Present information about a natural wonder
14. Review I
15. Mid-Term report
16. Unit 7　Describe people's appearances
17. Unit 7　Add information for emphasis
18. Unit 8　Identify different endangered animals
19. Unit 8　Provide information about an endangered animal
20. Unit 9　Identify different sections in a supermarket
21. Unit 9　Categorize food items by their collective noun
22. Unit 10　Describe the effects of natural disasters
23. Unit 10　Inform others about a city's extreme weather
24. Unit 11　Characterize different art forms
25. Unit 11　Create your own art exhibition
26. Unit 12　Label different household devices
27. Unit 12　Design a smart home
28. Review II
29. Course Review
30. Course summary

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前には該当箇所の予習をして，授業終了後は学習した内容を復習して習熟に努めること。これらの学修に 1 時間を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート・小テストについては採点の上返却する。また，提出物等は講評し改善のためのアドバイスを行う。

６．授業における学修の到達目標

１．英語の基本的な技能に習熟することによって，英語による意思の疎通を図ることができる。

２．異文化について学び理解することによって，日常生活での自身の発想を広げ多角的なものの見方を身に付けることができる。

７．成績評価の方法･基準

試験とレポート（50%），提出物・小テスト・授業の参加度・積極性（50%）を総合して評価する。

８．テキスト･参考文献

角山輝彦/Live ABC editors 著,『Live Horizons Book2』成美堂（2026）

９．受講上の留意事項

英語をわかりやすく基礎から段階を踏んで授業を行うので，英語に自信がなくても安心して受講してほしい。授業には辞書または電子辞書を持参すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語Ｂ（３）	講義	講師　松本　秀樹	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110202 12210202 13210202

１．授業のねらい・概要

選択英語Ａ（３）を継続・発展させた内容とする。

英語の４技能を使ったコミュニケーションに習熟することによって，様々な背景をもつ人々とも自然と交流し意思疎通がはかれるようになることをねらいとする。教材に登場する同世代の人物から英語圏各地の文化，風土とともに彼ら自身の現在の姿や将来のビジョンを知り，学生自身の将来像を考える機会とする。日頃の生活や将来の仕事の場面においても英語でコミュニケーションを取ろうとする態度が身に付くように具体的な場面を設定して生きた英語に慣れ親しみながら学べるようにする。また，異文化を理解し自身の発想を広げ，多角的に物事を見て考える姿勢を身に付ける。

２．授業の進め方

２コマで１ユニット進むこととする。ユニットの前半は，トピックに関する内容についてウォーミングアップを行い，関連する語彙や表現を学ぶ。その後トピックについて動画により学習し，内容の要点を捉えた上でコミュニケーション活動に習熟し英語運用能力を高めるとともに，異文化理解を通して世界の中の自分を意識する機会とする。ユニットの後半は，英語圏に住む同世代のインタビューを視聴してリスニングやリーディングを行い英語の実践的総合力を向上させるとともに，文化・習慣についての理解を深め学生自身の将来像を考える機会を設定する。

３．授業計画

1. Course orientation and overview
2. Unit 1　New York　Introduction
3. Unit 1　The City That Never Sleeps
4. Unit 2　New York　Documentary
5. Unit 2　A Passion for Hip Hop
6. Unit 3　Australia　Introduction
7. Unit 3　The Unique Continent
8. Unit 4　Australia　Documentary
9. Unit 4　A Girl with Big Dreams and High Hope
10. Unit 5　Northern Ireland　Introduction
11. Unit 5　A Country with Old History and Unique Nature
12. Unit 6　Northern Ireland　Documentary
13. Unit 6　More Than Meets the Eye
14. Unit 7　Review Section I
15. Mid-Term report
16. Unit 8　South Africa　Introduction
17. Unit 8　The Rainbow Nation
18. Unit 9　South Africa　Documentary
19. Unit 9　Life Is a Gift
20. Unit 10　Wales　Introduction
21. Unit 10　A Small Country with a Big History
22. Unit 11　Wales　Documentary
23. Unit 11.　Enjoying New Experiences
24. Unit 12　India　Introduction
25. Unit 12　A Lively Country of Colors and Contrasts
26. Unit 13　India　Documentary
27. Unit 13　The Most Important Things in My Life
28. Review Section II
29. Course Review
30. Course Summary

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前には該当箇所の予習をして，授業終了後は学習した内容を復習して習熟に努めること。これらの学修に１時間を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート・小テストについては採点の上返却する。また，レポートは講評し改善のためのアドバイスを行う。

６．授業における学修の到達目標

１．英語の基本的な技能に習熟することによって，英語による意思の疎通を図ることができる。

２．異文化について学び理解することによって，日常生活での自身の発想を広げ多角的なものの見方を身に付けることができる。

７．成績評価の方法･基準

試験とレポート（50%），提出物・小テスト・授業の参加度・積極性（50%）を総合して評価する。

８．テキスト･参考文献

森田彰，Bill Benfield 他 著,『World Wide English Volume ２　世界で輝く若者たちの英語２』成美堂（2016）

９．受講上の留意事項

英語をわかりやすく基礎から段階を踏んで授業を行うので，英語に自信がなくても安心して受講してほしい。授業には辞書または電子辞書を持参すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語Ｂ(3)		講義	講師　村元 エリカ マリア	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11110202 12210202 13210201

１．授業のねらい・概要

本コースでは，この分野の新たな知識を身につけ，興味に応じた言語的・文化的なトピックスを探求し，現代社会において有用となるグローバルな思考力を養います。

２．授業の進め方

選択英語 B は，アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生が実践的な問題解決能力を養うことを目指します。具体的には、PBL（課題解決型学習）、調査学習、グループワーク、プレゼンテーション、リフレクションを行い、学生はグループで協力して興味のあるテーマに関連する問題を調査し、アイデアを出し合い、解決策を見つけます。英語のスキルについて心配せず、挑戦し、間違いから学び、グループで成長することが大切です。

３．授業計画

第１回　Welcome: Introduction to the Course and Participants / Course Orientation
第２回　Syllabus Overview / General Tasks
第３回　Topic 8: Embracing Diversity and Knowledge Sharing: Learning Through Global Topics (pp. 1 - 4)
第４回　What You Will Learn & Make Groups (pp. 5-10)
第５回　Parts of Research & Part 1 - Research Topic (pp. 11-15)
第６回　Sources and References - Research Skills (pp. 16-18)
第７回　Part 2 - Reason for Interest (pp. 19-21)
第８回　Part 3 - Views from Japan (pp. 22-25)
第９回　Part 4 - Country Description and Language (pp. 26-32)
第１０回　Part 5 - Communities in Japan & Interview (pp. 33-38)
第１１回　Part 6 - Views from your group’s selected country (pp. 39-43)
第１２回　Part 7 - Partnership and Actions (pp. 44-48)
第１３回　Part 8 - Comparison (pp. 49-53)
第１４回　Part 9 - Japanese Professional (pp. 54-56)
第１５回　Citation and Academic Integrity (pp. 57-59)
第１６回　Preparation for Group Presentation - Selecting Slide Software (pp. 60-62)
第１７回　Preparation for Group Presentation - Dividing Tasks and Designing the Presentation (pp. 63-70)
第１８回　Presentation Requirements (p. 71)
第１９回　Presentation Requirements - Greetings and Quiz (pp. 72-73)
第２０回　Presentation Requirements - Speaking Notes (pp. 74-75)
第２１回　Presentation Requirements - Preparation for Q&A (pp. 76-79)
第２２回　Practice and Presentation (pp. 80-82)
第２３回　Presentation Evaluation Process (pp. 83-85)
第２４回　Presentation – Day 1
第２５回　Presentation – Day 2
第２６回　Presentation – Day 3
第２７回　Presentation – Day 4
第２８回　Presentation – Day 5
第２９回　Can-Do Questions (p. 86)
第３０回　Research Report Writing / Pick Up Loose Ends / Review Course

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

後期週２回型。遅刻・欠席しない様に、積極的に参加してください。授業で配布された詳細日程表に基づいて，次回の講義で学習する範囲を予習してくること。自主的に課題を進めてください。なお，これらの準備学修には，プレゼンテーション用スライドおよびスピーキングノートの準備，ならびに他の受講生の発表に関するリフレクションペーパーの作成を含め，１時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教科書課題または授業外課題はすべて授業中に確認する。プレゼンテーションの講評を行う。筆記試験は採点し，返却する。

６．授業における学修の到達目標

- 一般教養および専門科目に必要となる英語の４技能（リスニング，スピーキング，リーディング，ライティング）を効果的に使える能力を示すことができる。
- 世界中の多様な言語的・文化的文脈を探究することができる。
- 英語の実践を通して，異なる文化や社会と自身を結びつけ，多様性について考察することができる。
- 英語で，自分の考えを口頭および文章で表現することができる。

７．成績評価の方法･基準

このコースに合格するためには，60%の合格点を取得する必要があります。評価は以下の通りです。

(20%)　リフレクションペーパー（コメント用紙）

(20%)　課題(教科書課題および/または授業外課題)

(40%)　プレゼンテーション

(20%)　自己評価・レポート

８．テキスト･参考文献

教科書：　　指定しない。

参考資料：　　授業内で配布する資料を使用する。

９．受講上の留意事項

授業には，配布資料／ハンドアウト，パソコンまたはタブレット，英和・和英辞書（電子辞書を含む）を持参すること。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語Ｂ(4)		講義	非常勤講師　佐野　敏之	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11110202 12210202 13210202

１．授業のねらい・概要

『選択英語Ａ(4)』の継続との位置づけです。英語を聞き，話し，読み，書く総合的能力の向上を図り，英語への苦手意識を無くし，相手に臆せず円滑なコミュニケーションが取れるよう英語に親しみ慣れることをねらいとします。様々な場面での会話や，日本とは異なる視点から書かれた文書講読を通じて，異文化多様性に触れる機会を得ることで視野を広げることにもつながります。

２．授業の進め方

４コマで１ユニットを構成します。ユニットの内容は，１．語彙と会話リスニング，２．様々な表現によるスピーキング，３．文法と練習問題，４．読解と作文です。まず基本的表現を習得した上で，自分自身に置き換えた会話を学生同士のロールプレイも交えて体得します。次に，様々な状況を想定し，臨機応変に対応できる実践的なコミュニケーションスキルを養います。読解は，速読の訓練と文法を介した熟読の両面から，文章の内容・意図を迅速かつ正確に把握する力をつけます。

３．授業計画

１．Review of the 1st Semester and Goal-Setting	16．Unit 11:過去進行形
２．Unit 8:The Big Screen	17．Unit 11:Sports Hero
３．Unit 8:Apologizing / Talking about Movies	18．Unit 12:Rain or Shine
４．Unit 8:時刻表現	19．Unit 12:Describing Weather Conditions
５．Unit 8:The Wildest Job in Movies	20．Unit 12:単純未来形
６．Unit 9:How Do You Feel?	21．Unit 12:Safe at Home
７．Unit 9:Talking to People with Different Feelings	22．Unit 13:Eating Out
８．Unit 9:分詞形容詞 -ing，-ed	23．Unit 13:Ordering a Meal
９．Unit 9:Do Animals Have Feelings?	24．Unit 13:不定代名詞
10．Unit 10:All in Good Fun	25．Unit 13:Going to Restaurants around the World
11．Unit 10:Talking about Likes and Dislikes	26．Unit 14:School Life
12．Unit 10:動名詞・不定詞	27．Unit 14:Discussing Problems / Stating Your Goals
13．Unit 10:Make Your Life More Extreme	28．Unit 14:現在完了形
14．Unit 11:Game Time	29．Unit 14:Working for No Money
15．Unit 11:Talking about Injuries	30．Class Survey and Review of the Course

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前にテキストのレッスン該当箇所を自習用オンライン音源で聴くなどして，テキストの空欄を埋め，質問事項にも回答しておくこと（必要時間 30 分程度)。授業後はオンライン音源を使用するなどして，学習箇所を一通り復習すること（必要時間 20 分程度)。“毎日”英語に接することが確実な習得につながります。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後，授業内ないしはオンラインにて，回答，解説，講評をフィードバックします。

６．授業における学修の到達目標

基本的な会話表現を身につけることで，相手に臆することなく英語で日常生活上最低限必要なコミュニケーションが取れるようにします。

７．成績評価の方法･基準

授業への取組み姿勢・小テスト・課題（50%），期末試験・課題（50%）に基づいて評価します。

８．テキスト･参考文献

テキスト：角山照彦他著『４技能を高める英語演習 Book1 New Connection Book 1』（成美堂 2022）

９．受講上の留意事項

受講者の習熟度に応じた分かりやすい説明，段階を踏んだ指導に努めますので，特に，英語に苦手意識を持っている学生，あるいはもう一度基本から学び直したい学生に参加してほしい。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は，金融機関，サービス業界における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択中国語Ａ

２０２６年度

休講

選択中国語Ｂ

２０２６年度

休講

選択ドイツ語Ａ

２０２６年度

休講

選択ドイツ語Ｂ

２０２６年度

休講

選択フランス語Ａ		講義	非常勤講師　佐野　敏之	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11110205 12210207

１．授業のねらい・概要

フランスと聞くと何を思い浮かべますか。芸術？グルメ？ファッション？パリ 2024 年オリンピック・パラリンピック？テニス全仏オープン Roland Garros？ では，フランス語はどうでしょう。優雅，おしゃれ，難しそう？ 世界で最も美しい響きを持つと言われるフランス語は，約 30 ヵ国で公用語として使用されている他，国連，ＥＵ，ＯＥＣＤ，ユネスコ，国際オリンピック委員会を始めとした多くの国際機関で公用語の一つに採用されており，英語に次ぐ世界第二の公用語として大変有用な言語です。

本科目では，全くの初心者を対象に，会話を中心とした基本的な表現を習得することで，海外渡航した際に街中でのコミュニケーションが取れる基礎的総合力を養うことをねらいとします。また，フランス語を通じてフランス文化・社会やフランス人の考え方・日常生活など新しい世界に触れることで，多面的な見方を身につけます。

２．授業の進め方

まずは日常生活で使用する挨拶などの基礎的な表現を通じてフランス語の発音とリズムに慣れ，平行して基本的な文法や文章構成を学習します。自分自身に置き換えた言葉や表現を反復することで語彙を増やし，使えるフランス語を目指します。学習方法：テキストを活用した発音指導，聞き取り，会話練習が中心。

３．授業計画

１．フランス語の魅力，習得のコツ，発音の特徴	16．身の回りの物に関する語彙，目的語を伴う否定形
２．４月のフランス，日常の挨拶から始めよう！	17．家族に関する語彙，「何歳ですか？」
３．「私の名前～です」，「フランス人ですか？」	18．文法：動詞 avoir（持っている）の活用，否定の de，疑問文の作り方
４．「それは～です」，数字 0～20 とその指の動作	19．「その人は誰？」，「仕事は何してるの？」
５．文法：主語人称代名詞，動詞 être（～です）の活用，国籍の表現	20．「どんな人？」，人物を描写する（性格・外見）
６．５月のフランス，「私は～です」，「～に住んでいます」	21．国・～人に関する語彙，相手にインタビューする
７．職業・身分の表現，場所の言い方	22．文法：所有形容詞，疑問詞（1），形容詞の性と数
８．簡単な自己紹介，数字 21～30	23．「私の携帯はどこ？」，「これは何ですか？」
９．文法：oui と non，－er 型動詞の活用，エリジヨン	24．部屋の中の物に関する語彙，物の位置を示す
10．「～をください」，「はい，どうぞ」	25．文法：定冠詞，「～は何？」・「何を～？」，縮約（1）
11．「～語を話しますか？」，「いいえ，話しません」	26．７・８月のフランス，数字 70～100
12．カフェでの飲み物・食べ物と注文，数字 30～69	27．「それ大好き！」，「～がたくさんあるね」
13．文法：名詞の性と数，不定冠詞，否定文	28．動詞 aimer（好き）を使った表現，定冠詞の用い方
14．６月のフランス，「アドレス教えて」	29．相手の好みを聞く，好き嫌いの程度を言う
15．「～を持ってますか？」，「兄弟がいますか？」	30．復習．相手の関心を引く自己紹介

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前にテキストのレッスン該当箇所を自習用オンラインビデオで最低３回視聴しておくこと（必要時間 10 分程度）。授業後は再度オンラインビデオを使って，習った会話表現を次回の授業まで毎日最低５回繰り返すこと（必要時間 15 分程度／日）。初心者にとって短い時間（10～15 分／日）でも，“毎日”フランス語に接することが確実な習得につながります。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後，授業内ないしはオンラインにて，回答，解説，講評をフィードバックします。

６．授業における学修の到達目標

則した基本的な会話表現を身につけることで，相手に臆することなくフランス語で日常生活上最低限必要なコミュニケーションが取れるようになることを目標とします。

到達目標：１．発音の会得と文法基礎の理解　２．日常会話の習得・実践　３．フランス語で自分の意思を伝える

７．成績評価の方法･基準

授業への取組み姿勢（60%），期末試験・課題（40%）に基づいて評価します。

８．テキスト･参考文献

テキスト：二コラ・ガイヤール他著『新装カフェ・フランセ Nouveau Café Français』(朝日出版社 2022)

９．受講上の留意事項

履修者は全くの初心者が前提で，発音や表現を一からゆっくり分かりやすく指導しますので積極的に参加してほしい。

授業出席と復習が肝要です。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は，金融機関，サービス業界における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択フランス語Ｂ	講義	非常勤講師　佐野　敏之	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目，スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110206 12210208

１．授業のねらい・概要

本科目は前期の『選択フランス語A』の履修者を対象に，学んだ基本的な日常会話や表現を復習，再確認することと併せて，相手に則した幅広い表現ができるよう，語彙を増やし修辞技法を会得することをねらいとします。一方，読む力，書く力を身につけ発展させるため，基礎文法も体系的に学習します。

２．授業の進め方

様々なシチュエーションを想定して，自分自身に置き換えた言葉やいくつかの異なる表現を反復して習得します。語彙や表現方法を豊かにし，動作も含めた実践的で相手に通じるフランス語習得を目指します。学習方法：テキストを活用した聞き取り，会話練習の他，音楽や映画などの視聴覚教材を使ってリスニング力，表現力を強化します。

３．授業計画

１．前期の復習	16．時刻の表現と使用する前置詞
２．「今日は何着てるの？」，「それ似合ってるよ」	17．日常生活に関する動詞と表現
３．洋服に関する語彙，色の表現，比較する	18．文法：二通りの時刻表現，代名動詞の活用
４．「いい天気ですね」，気候に関する表現	19．「～知っている？」，「どうして？」
５．文法：比較級，指示形容詞，非人称構文	20．「仕事楽しい？」，「まあまあね」
６．「サッカーするの？」，「時々ね」，頻度の副詞	21．ある人について情報を得る聞き方，アルバイトについて話す
７．「朝ごはんは何食べるの？」，「カフェオレだけ」	
８．スポーツをする表現，楽器を演奏する表現	22．文法：目的語人称代名詞，疑問詞（3），不規則動詞の活用－connaître（知っている）と voir（見える）
９．文法：部分冠詞，中性代名詞，si と non，動詞 prendre（取る）と faire（する）の活用	23．「お決まりになりましたか？」，「ボナペティ！」
10．「お昼行かない？」，「お腹すいた」	24．「お味はいかがですか？」，「どってもおいしいです」
11．「通勤時間どれくらい？」，「だいたい 30 分かな」	25．フランスの食事の流れについて，メニューの見方，注文の仕方
12．曜日に関する語彙，場所を示す前置詞	
13．誘い方，乗り物に関する語彙と時間	26．料理の感想について述べる
14．文法：不規則動詞の活用－aller（行く），venir（来る），mettre（置く），vouloir（したい），pouvoir（できる），縮約（2），中性代名詞 y，疑問詞（2）	27．文法：複合過去（1），半過去
	28．「昨日何してたの？」，「大学に行ったよ」
	29．文法：複合過去（2），主語代名詞 on
15．「たいてい朝 7 時に起きて，8 時に家を出ます」	30．１～３月のフランス，ある一日の行動を話す

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前にテキストのレッスン該当箇所を自習用オンラインビデオで最低３回視聴しておくこと（必要時間 10 分程度）。授業後はオンラインビデオを使って，習った会話表現を次回の授業まで毎日最低５回繰り返すこと（必要時間 15 分程度／日）。初心者にとって短い時間（10～15 分／日）でも“毎日”フランス語に接することが確実な習得につながります。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後，授業内ないしはオンラインにて，回答，解説，講評をフィードバックします。

６．授業における学修の到達目標

相手や状況に応じた多様な会話表現を身につけることで，相手と対等な立場に立ってフランス語で意思疎通が図れるようにします。

到達目標：１．基本文法の習得　２．多様な日常会話の習得，実践　３．フランス語で自分の意見を述べる

７．成績評価の方法･基準

授業への取組み姿勢（60%），期末試験（40%）に基づいて評価します。

８．テキスト･参考文献

テキスト：二コラ・ガイヤール他著『新装カフェ・フランセ Nouveau Café Français』（朝日出版社 2022）

９．受講上の留意事項

『選択フランス語A』で学んだ基礎を確認しながら，更に豊かな表現に発展させていきますので，生きたフランス語に触れる機会となります。授業出席と復習が肝要です。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は，金融機関，サービス業界における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

ストレングス・コンディショニング特講	講義	教授　柳澤　修	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目，柔道整復師コースの教養選択科目，救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11322401 12220401 13220401

１．授業のねらい・概要

NSCA(National Strength and Conditioning Association)の認定資格である CSCS(Certified Strength ＆ Conditioning Specialist：認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト）の受験対策講義である。本授業のねらいは，CSCS 資格認定試験の受験に必要となる基本的な知識の獲得である。本講義を通じて，「運動科学の概念と適用」「測定と評価」「エクササイズのテクニック」「プログラムデザイン」，そして「構成と運営」に関する基本的な事項を学ぶ。

２．授業の進め方

講義と問題演習を組み合わせて授業を進めていく。

３．授業計画

１．筋系，神経系，呼吸循環系の構造と機能	９．ウォームアップとストレッチング
２．運動とエネルギー供給系	10．レジスタンスエクササイズのテクニック
３．トレーニングと内分泌系	11．無酸素性運動の処方
４．レジスタンスエクササイズのバイオメカニクス	12．有酸素性運動の処方
５．トレーニングに対する適応	13．ピリオダイゼーション
６．競技と心理学	14．リハビリテーションとリコンディショニング
７．トレーニングと栄養	15．組織と運営
８．テストと評価	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

次回のテーマに該当する章（NSCA 決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング）を熟読しておくこと。なお，この準備学修には 2 時間以上が必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題演習の解説を通じて，トレーニング科学に関する知識をフィードバックする。

６．授業における学修の到達目標

CSCS 資格認定試験の受験に必要となる基本的な知識を獲得する。

７．成績評価の方法･基準

授業内の問題演習で評価する（100%）。成績評価にあたっては，授業回数の 2/3 以上の出席を前提とする。

８．テキスト･参考文献

NSCA 決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング

９．受講上の留意事項

CSCS を受験する学生が履修の対象となる。受講までに「NSCA 決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング」を熟読しておくこと。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，国内トップアスリートを対象とした研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。